



機器分析分野

Division of Instrumental Analysis

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1

E-mail : kiki@t.gifu-u.ac.jp

TEL : 058-293-2035

FAX : 058-293-2036

目 次

◆ 分野長代行挨拶	145
1 組織	146
1. 沿革	
2. 機器分析分野職員	
3. 協力員および協力補助員	
機器分析分野協力員に関する申合せ	
表 1. 協力員名簿	
2 機器紹介	151
1. 機器一覧	【柳戸地区】表 2-1-1.、【医学地区】表 2-1-2.
2. 機器配置場所	【柳戸地区】表 2-2-1.、【医学地区】表 2-2-2.
3. 共用機器の紹介	【柳戸地区】、【医学地区】
3 利用の手引き	174
1. 機器分析分野利用の手順	
2. 計測機器の利用に関する申し合わせ	
別表 1. 利用者資格【柳戸地区】、【医学地区】	
別表 2. 機器分析分野利用申請書	
別表 3. 時間外利用届（柳戸地区）、（医学地区）	
3. 受託試験について	
高等研究院科学研究基盤センター機器分析分野 受託試験，測定及び検査等取扱要項	
別表 試験等の基本利用料金	
4. 受託試験等の手続き	
別紙様式第 1 号 岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター受託試験依頼書	
別紙様式第 2 号 岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター機器等使用申請書	
4 活動報告	192
1. 2023 年度機器の利用状況	
登録人数、延利用人数、延検体数、延使用時間【柳戸地区】表 4-1-1.、【医学地区】表 4-1-2.	
2. 活動状況報告	
1) 2023 年度機器分析分野協力員会議	
2) 2023 年度国立大学機器・分析センター協議会	
3) セミナー	
4) 機器分析分野受託試験等依頼実績	
5) センター見学	
6) 機器分析分野機関誌の原稿作成等	
3. 利用者研究論文一覧	
4. 機器分析分野教員の教育・研究活動等	

◆ 分野長代行挨拶

機器分析分野長代行 鎌足 雄司

学内外の研究者の皆様には日頃より機器分析分野の研究基盤、受託試験を利用頂きありがとうございます。

機器分析分野は、科学研究の基盤を支えるセンターの一分野として、電子顕微鏡、核磁気共鳴分光装置 (NMR)、質量分析装置などの大学の研究力を支える大型の各種測定機器と測定技術を研究者に提供することで、研究と教育に貢献し、東海国立大学機構の中期目標である「国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展」達成を目指しています。また、学外向けの受託試験や公開セミナーを通じて、社会に貢献しています。ここ数年着実に受託試験の依頼も増え、昨年度は 94 件のご利用を頂きました。

これからも、利用者皆様の研究の発展に寄与できますよう、協力員の先生方のご支援を賜りながら、当分野を運営していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

1 組織

1. 沿革

昭和 55 年度 岐阜大学統合移転に伴い、学内共同岐阜大学情報・計測センターを設置。
昭和 58 年度 岐阜大学計測センター及び岐阜大学情報処理センターに改組。
平成 9 年度 省令化に伴い、岐阜大学機器分析センターとして新たに発足。
平成 15 年度 センター統合により生命科学総合実験センター機器分析分野に改名。
平成 16 年度 大型精密機器高度利用公開セミナー開始。学外向けの受託試験制度を整備。
平成 17 年度 生命科学総合研究支援センターへ名称変更。
平成 23 年度 人獣感染防御センターから機器移管により、医学施設を設置。
平成 26 年度 医学施設を統合。
平成 30 年度 研究推進・社会連携機構の傘下に入り科学研究基盤センターへ名称変更。
令和 2 年度 東海国立大学機構の発足に伴い、岐阜大学高等研究院に所属。
令和 3 年度 糖鎖生命コア研究所に所属。

2. 機器分析分野職員 () 内は内線番号

(1) 専任教員

助教 鎌足 雄司 (3900)

(2) 職員

副技師 二ノ宮 真之 (2035)

技術職員 茅田 芳広 (2035)

技術補佐員 神谷 哲二 (2035)

技術補佐員 松永 翔子 (2035)

技術補佐員 斉藤 恵美 (2035)

事務補佐員 杉山 知美 (9260)

3. 協力員および協力補助員

機器分析分野協力員に関する申合せ

(趣旨)

第 1 この申合せは、岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター（以下「センター」という。）に置く機器分析分野協力員（以下「協力員」という。）に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 協力員は、センターの機器分析分野が所有する機器及び設備（以下「機器等」という。）を責任をもって取扱うことができる者とする。

(組織)

第 3 協力員は、機器等ごとに置き、機器分析分野長（以下「分野長」という。）が推薦する岐阜大学の専任の教員をもって充て、センター長が依頼する。

(責任者)

第 4 担当する機器等ごとの責任者は、協力員の互選により選出する。

(任務)

- 第5 協力員は、センターの教職員と協力して次の内容を協議し、業務を行う。
- 一 機器等の原理・使用法に関する講習会等に関すること。
 - 二 機器等の維持管理に関すること。
 - 三 機器等の使用法等相談に関すること。
 - 四 その他、機器等の円滑な運用に関すること。

(任期)

- 第6 協力員の任期は二年とし、再任を妨げない。

(補助員)

- 第7 協力員の業務を補助するために、協力員補助員（以下「補助員」という。）を置くことができる。
- 2 補助員は、補助が必要な機器等ごとに置き、分野長が推薦する者をもって充て、センター長が依頼する。
 - 3 補助員の任期は二年とし、再任を妨げない。

附 則

この申合せは、平成30年5月9日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この申合せは、令和2年7月8日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この申合せは、令和6年5月23日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

表 1. 協力員名簿 (◎ : 機器取扱責任者、* : 協力補助員)

2024. 4. 1

機 器 名	氏 名	電話番号	部 局
【柳戸地区】 大型電子顕微鏡 (透過型 H-7000 形・TEM・日立) (透過型 JEM-2100 形・TEM・日本電子、EDX) 走査型電子顕微鏡 (S-3000N・SEM) 電界放出型走査型電子顕微鏡 (S-4300・SEM、EDX) 高分解能電界放出型走査電子顕微鏡 (S-4800・SEM、EDX) デジタルマイクロスコプ (ライカ DVM-5000) 真空蒸着装置 イオンスパッタ・エアポレーションユニット (カーボン専用) ディンプルグラインダー ガラスナイフ作成器 超マイクロ切片作製システム ネオオスミウムコーター イオンミリング 精密イオンポリッシング装置 光硬化性樹脂包埋装置 走査型プローブ顕微鏡システム (AFM5300E, AFM5400L)	◎西田 哲 杉浦 隆 池田 将 櫻田 修 武野 明義 大和 英弘 内藤 圭史 宮本 学 吉田 道之 橋本 慧 酒井 洋樹 今泉 鉄平 勝野 那嘉子 高島 茂雄 秋田 正之* 矢野 倫子*	2538 2590 2639 2574 2629 2682 2514 2588 2566 2512 2957 2930 2869 3174 2500 5531	工学部 // // // // // // // // 応用生物科学部 // // 糖鎖生命コア研究所 全学技術センター //
【柳戸地区】 走査型 X 線光電子分光分析装置 (Quantera SXM-GS)	◎山田 啓介 上坂 裕之 櫻田 修 西田 哲 大橋 史隆 高橋 紳矢 須網 暁	2819 2511 2574 2538 2686 2631 2509	工学部 // // // // // //
【柳戸地区】 高分解能質量分析装置 (GCmate II, JMS-700, AMSUN200, JMS-T100LP, AXIMA) 液体クロマトグラフ (Agilent1100-MS-52011LC, nano LC, EXTREMA)	◎吉松 三博 瀨瀬 守 植村 一広 芝原 文利 大野 敏 窪田 裕大 勝野 那嘉子 山内 恒生 犬塚 俊康	2251 2619 2561 2616 2645 2596 2869 2897 3901	教育学部 工学部 // // // // 応用生物科学部 // 科学研究基盤センター

2 機器紹介

1. 機器一覧

【柳戸地区】 表 2-1-1. 納入年度と規格

品名	納入年度	規格
1. 大型電子顕微鏡・デジタル顕微鏡 大型電子顕微鏡 (TEM) 大型電子顕微鏡 (TEM) STEM, EDX 付 ガラスナイフ作製器 " 超マイクロトーム 真空蒸着装置 ディンプルグラインダー イオンスパッタ、カーボンコーター ネオオスミウムコーター " イオンミリング装置 精密イオンポリッシング装置 超音波ディスクカッター ダイヤモンドワイヤーソー スパッタコーター カーボンコーター 光硬化性樹脂包埋装置 電界放出型走査型電子顕微鏡 (FE-SEM) EDX 付 走査型電子顕微鏡 (N-SEM) 高分解能電界放出型走査電子顕微鏡 (FE-SEM) エネルギー分散型 X 線分析装置 デジタルマイクロスコープ	H21 年度 " S60 年度 H9 年度 " S59 年度 H5 年度 H8 年度 H17 年度 R5 年度 H19 年度 H21 年度 H22 年度 " " " R3 年度 H14 年度 H15 年度 H19 年度 R2 年度 H22 年度	日立製作所 H-7000 (停止中) 日本電子 JEM-2100, 堀場 EX-220 三慶科学 メッサーC ライカ ガラスナイフメーカー EM KMR ライカ ULTRACUT-UCT 日立製作所 HUS-5GB ガタン MODEL 656 N 日立製作所 E-102, E-201 メイワフォーシス Neoc-ST メイワフォーシス Neoc-Pro 日立製作所 E-3500 形 ガタン MODEL 691 ガタン MODEL 601 メイワフォーシス DWS3242 メイワフォーシス SC200 メイワフォーシス CADE-EHS メイワフォーシス CT-UVBox 日立製作所 S-4300, 堀場製作所 EX-220 日立製作所 S-3000N 日立製作所 S-4800 OXFORD Instruments Ultim MAX100 ライカマイクロシステムズ DVM5000
2. 走査型プローブ顕微鏡システム (SPM)	H25 年度	日立ハイテクサイエンス 大型ユニット AFM5400L 環境制御ユニット AFM5300E
3. 走査型 X 線光電子分光分析装置 (XPS/ESCA)	H19 年度	アルバック・ファイ Quantera SXM-GS
4. 高分解能質量分析装置 (MS) " " " " 液体クロマトグラフ (HPLC) " (nanoLC) " (HPLC)	H13 年度 H15 年度 " H23 年度 H26 年度 H15 年度 H26 年度 R3 年度	日本電子 GCmate II 日本電子 JMS-700 日本電子 AMSUN200 (K9) 日本電子 JMS-T100LP 島津製作所 AXIMA-Resonance アジレント 1100 MS-52011LC 島津製作所 LC-20ADnano 日本分光 EXTREMA
5. フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR) 内訳: 500 MHz 固体測定補助装置 400 MHz 600 MHz	H14 年度 H18 年度 " R3 年度	日本電子 JNM-ECA500 日本電子 NM-93030CPM 日本電子 JNM-ECX400P 日本電子 JNM-ECZ600R/M1
6. 電子スピン共鳴装置 (ESR)	H14 年度	日本電子 JES-FA100

7. 誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES) マイクロ波分析前処理装置	H20 年度 H30 年度	ジョバンイボン ULTIMA2 (掘場製作所) CEM ジャパン MARS6
8. 波長分散型蛍光 X 線分析装置 (XRF) ビード作成装置 粉碎機	H23 年度 " "	Bruker AXS S8 TIGER 1kW Katanax K1 Prime Electric Fluxer 伊藤製作所 MC-4A
9. 有機微量元素分析システム (OEA) 有機微量元素分析装置 オートサンプラー 硫黄分析ユニット	H23 年度 " "	J・Science・Lab JM10 J・Science・Lab JMA102 J・Science・Lab JMSU10
10. 超高速度現象解析システム 内訳：超高速度撮影装置 " 汎用高速度撮影装置 高速度赤外線カメラ 汎用赤外線カメラ パルスジェネレータ PIV	H10 年度 H23 年度 " " H10 年度 " H16 年度	NAC FS501 島津製作所 HyperVision HPV-2A NAC MEMRECAM GX-8 FLIR SC7500STEC ニコン LAIRD 3ASH NAC DG-535 オックスフォードレーザーES1.0-NI1422
11. 紫外可視分光光度計 (UV-Vis) フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR) フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR) フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR) In Situ フーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR) 旋光計	H22 年度 " R1 年度 H14 年度 H15 年度 H22 年度	パーキンエルマー Lambda 950 パーキンエルマー Spectrum100 日本分光 FT/IR-4700 日本分光 460Plus メトラー・トレド ReactIR 4000 (停止中) 日本分光 P-2300
12. 円二色性分散計 (CD)	H13 年度	日本分光 J-820P
13. フォトルミネッセンス分析システム 蛍光寿命測定装置 (Tau) 絶対 PL 量子収率測定装置 (QY) 分光蛍光光度計 (FL)	H23 年度 " "	浜松ホトニクス Quantaurs-Tau 浜松ホトニクス Quantaurs-QY 日本分光 FP-8600
14. テラヘルツイメージングシステム フェムト秒ファイバーレーザー テラヘルツ分光走査型顕微鏡	H17 年度 H19 年度	アイシン精機 フェムトライ BS-60-YS(停止中) オザワ THz-TDS (停止中)
15. 顕微レーザーラマン分光システム	H14 年度	日本分光 NRS-1000 (停止中)
16. 熱分析システム 示差熱量計 (DSC) 熱重量・示差熱同時測定装置 (TG/DTA) 熱機械分析装置 (TMA) 熱重量・示差熱同時測定装置 (TG/DSC)	H15 年度 " " R2 年度	エスアイアイ EXSTAR-6000 Series DSC6200, DSC6100, TG/DTA6300 TMA/SS6100, TMA/SS6300 日立ハイテック、NEXTA Series STA300
17. 粒子解析システム フロー式粒子像分析装置 粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置	H22 年度 "	マルバーン FPIA-3000 マルバーン Zetasizer Nano ZS
18. 粘弾性解析システム レオメーター 動的粘弾性測定装置	H22 年度 "	TA・インスツルメント AR-GII KG TA・インスツルメント DMA Q800 KG

19. 物質微細構造解析システム X線マイクロCT スキャン	H22 年度	Bruker SKYSCAN1172-GU
20. その他 マイクロ天秤	H19 年度	ザルトリウス MC5

【医学地区】表 2-1-2. 納入年度と規格

品 名	納入年度	規 格
1. 核磁気共鳴分光装置 (NMR) 内訳：800MHz 600MHz	H21 年度 〃	Bruker BioSpin AVANCE III 800 (停止中) Bruker BioSpin AVANCE III 600
2. 超高輝度 X 線回折装置	H17 年度	Rigaku FR-E SuperBright
3. 電子スピン共鳴装置 (ESR)	H21 年度	Bruker BioSpin EMXmicro

2. 機器配置場所

【柳戸地区】表 2-2-1. 総合研究棟Ⅱ 1階

機 器 名	メーカー・型番	室名	場所	
質量分析装置 (MS)	島津 AXIMA-Resonance	1	A	
	日本電子 JMS-T100LP (AccuTOF LC-plus)		B	
	日本電子 JMS-700		C	
	日本電子 GCmate II		D	
	日本電子 JMS-AMSUN200 (K9)		E	
液体クロマトグラフ	島津 nanoLC		A	
	アジレント MS-52011LC		B	
	日本分光 EXTREMA		E	
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR)	日本電子 JNM-ECX400p	2	F	
	日本電子 JNM-ECA500・NM-93030CPM		G	
	日本電子 JNM-ECZ600R/M1		H	
レオメーター	TA・インスツルメント AR-G2 KG	3	I	
動的粘弾性測定装置	TA・インスツルメント DMA Q800 KG			
顕微フーリエ変換赤外分光光度計(顕微 IR)	日本分光 460Plus(利用可), IRT-30 (停止中)		J	
フーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR)	パーキンエルマー Spectrum100			
熱分析システム	エスアイアイ EXSTAR-6000 Series: DSC, TG/DTA, TMA 日立ハイテク TG/DSC		K	
円二色性分散計 (CD)	日本分光 J-820P		L	
In Situ フーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR)	メトラートレド ReactIR 4000 (停止中)		M	
フーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR)	日本分光 FT/IR-4700			
生体分子間相互作用解析システム*	Cytiva Biacore T200			
紫外可視分光光度計 (UV-Vis)	パーキンエルマー Lambda 950			N
分光蛍光光度計 (FL)	日本分光 FP-8600			O
絶対 PL 量子収率測定装置 (QY)	浜松ホトニクス Quantaaurus-QY			P
蛍光寿命測定装置 (Tau)	浜松ホトニクス Quantaaurus-Tau			Q
フロー式粒子像分析装置	マルバーン FPIA-3000			R
精密天秤	ザルトリウス MC5			
粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置	マルバーン Zetasizer Nano ZS	S		
旋光計	日本分光 P-2300			
顕微レーザーラマン分光システム	日本分光 NRS-1000 (停止中)	T		
有機微量元素分析装置 (OEA)	J-Science Lab CHN JM10/JAM102/JMSU10/JMR10		U	
透過型電子顕微鏡 (TEM)	日本電子 JEM-2100	4	V	
	日立製作所 H-7000 (停止中)	5	W	
デジタルマイクロスコープ	ライカマイクロシステムズ DVM5000	6	X	
ガラスナイフ作製器	三慶科学 メッサーC			
	ライカ ガラスナイフメーカー EM			
超マイクロトーム	ライカ ULTRACUT-UCT			

走査型電子顕微鏡 (N-SEM)	日立製作所 S-3000N	6	Y
走査型電子顕微鏡 (FE-SEM)	日立製作所 S-4300		Z
エネルギー分散型 X 線分析装置	堀場製作所 EX-220		
高分解能電界放出型走査電子顕微鏡	日立製作所 S-4800		a
エネルギー分散型 X 線分析装置	OXFORD Instruments Ultim MAX100		
ネオオスミウムコーター	メイワフォーシス Neoc-ST, Neoc-Pro		b
光硬化性樹脂包埋装置	メイワフォーシス CT-UVBox		
ダイヤモンドワイヤーソー	メイワフォーシス DWS3242		c
イオンスパッタ	日立製作所 E-102, E-201		
イオンミリング装置	日立製作所 E-3500		
ディンプルグラインダー	ガタン MODEL 656N		d
精密イオンポリッシング装置	ガタン MODEL 691		
超音波ディスクカッター	ガタン MODEL 601		
真空蒸着装置	日立製作所 HUS-5GB		e
スパッタコーター	メイワフォーシス SC200		
カーボンコーター	メイワフォーシス CADE-EHS		f
走査型プローブ顕微鏡システム (SPM/AFM)	日立ハイテクサイエンス AFM5400L, AFM5300E		
誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES)	ジョバンイボン ULTIMA2 (堀場製作所)	7	g
マイクロ波分析前処理装置	CEM Japan MARS6		h
X 線回折装置*	リガク SmartLab (9 kW)		i
電子スピン共鳴装置 (ESR)	日本電子 JES-FA100		
波長分散型蛍光 X 線分析装置 (XRF)	Bruker AXS S8 TIGER-MA 1kW		j
ビード作成装置	Katanax K1 Prime Electric Fluxer		
粉碎機	伊藤製作所 MC-4A		k
走査型 X 線光電子分光分析装置 (XPS/ESCA)	アルバック・ファイ Quantera SXM-GS		l
X 線マイクロ CT スキャン	Bruker SKYSCAN1172-GU		
テラヘルツ分光走査型顕微鏡	オザワ THz-TDS (停止中)		8
フェムト秒ファイバーレーザー	アイシン精機 フェムトライト BS-60-YS (停止中)		
超高速撮影装置	NAC FS501 島津製作所 HyperVision HPV-2A NAC HS-4540-2 NAC MEMRECAM GX-8	セミナー室	n
熱画像解析装置	FLIR SC7500STEC ニコン サーマルビジョン LAIRD 3ASH		
パルスジェネレータ	NAC DG-535		
PIV	オックスフォードレーザー ES1.0-NI1422		
ダブルパルスレーザー	カンテル TwinsUltra120		

その他：レーザー照明装置、錠剤成型機、油圧プレス、超音波洗浄機。*コアファシリティ機器共用連携室が管理する共用機器として、機器分析室 3・7 に設置。

機器配置図

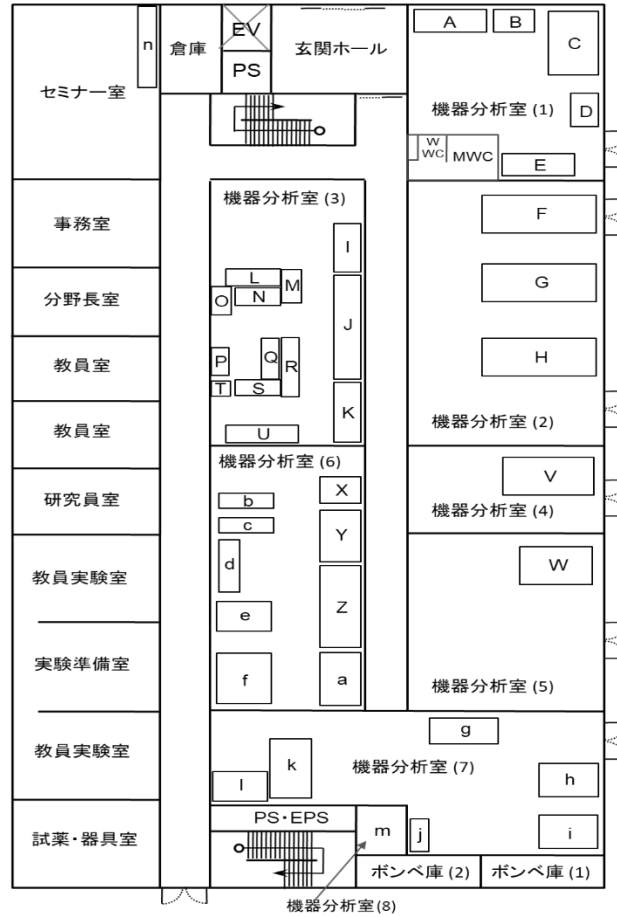


図 2-1. 総合研究棟Ⅱ 1階 機器配置図

【医学地区】表 2-2-2. 生命科学棟 1階

機 器 名	メーカー・型番	場 所
核磁気共鳴分光装置 (NMR)	Bruker BioSpin AVANCE III 600	A
	Bruker BioSpin AVANCE III 800 (停止中)	B
電子スピン共鳴装置 (ESR)	Bruker BioSpin EMXmicro	C
超高輝度 X 線回折装置	Rigaku FR-E SuperBright	D

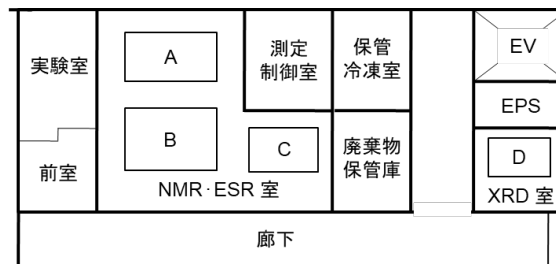


図 2-2. 生命科学棟 1階 機器配置図

3. 共用機器の概要

【柳戸地区】

1. 大型電子顕微鏡・デジタル顕微鏡【機器分析室 4, 5, 6】


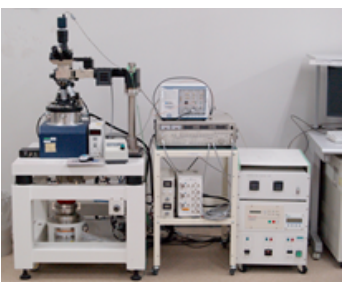
電子顕微鏡における電子線の波長は可視光線のものよりもかなり短く、透過型電子顕微鏡の場合、理論的には1 Å程度の分解能がある。当分野には、2台の透過型電子顕微鏡（H-7000、JEM-2100）、および、3台の走査型電子顕微鏡（S-4300、S-3000N、S-4800）が設置されている。

<p>H-7000 はタングステン（W）電子銃を搭載しており、125 kVまで6段階の加速電圧により低倍率から画像を観察することができる。生物材料および非生物材料の超薄切片を50倍から60万倍に拡大し、内部の微細構造の観察が可能である。格子像の分解能は2.04 Åである。得られた画像をCCDカメラに取り込み解析することができる。R4年度から停止中。</p>	
<p>JEM-2100 は高出力・高精度のLaB6電子銃を搭載しており、5段階で加速電圧を200 kVまで上げることができる。生物・非生物材料の超薄切片を2,000倍から150万倍に拡大し、内部の微細構造を観察できる。格子像の分解能は1.4 Åである。データはCCDカメラに取り込み解析することが可能である。また、STEM機能があり、対象を3次元で観察した3Dトモグラフを得ることもできる。加えて、接続したX線分析装置（EDX）によるホウ素より重い元素の分布解析も可能である。</p>	
<p>S-4300 は電界放出型電子銃（FEG）を備えた装置で、加速電圧は0.5～30 kVの範囲で可変することが可能であり、倍率は20 - 500,000倍、分解能は1.5 nm（15 kV）および5.0 nm（1 kV）である。高輝度な電子銃により、低加速電圧、例えば、1 kVでも高分解像を得ることが可能である。また、低加速電圧にて、無蒸着観察できる試料もある。装備されたX線分析装置EX-220は炭素などの元素分析ができる。</p>	
<p>S-3000N は通常のタングステンヘアピン型（熱電子放出型）電子銃を備えた装置であり、加速電圧が0.3～30 kVの範囲で使用される。倍率は5～300,000倍で、二次電子像分解能は3.0 nm（高真空モード、加速電圧25 kV）、反射電子像分解能は4.0 nm（低真空モード、加速電圧25 kV）である。このSEMの特徴は、低真空270 Pa（約2 torr）で試料の観察が可能なことである。</p>	
<p>S-4800 は電界放出型電子銃（FEG）を備えた装置で、S-4300より性能と使い勝手が向上している。試料のX-Y移動および回転の3軸が電動で調整できる。加速電圧が15 kVで1.0 nm、1 kVでも2 nmの高分解能を有する。試料ステージにマイナスの電圧をかけ、入射電子を減速するリターディング機能を用いると1 kVで1.4 nmの分解能が得られる。X線分析装置(EDS)Ultim MAX100が接続されており、SEM像に合わせて元素分析が可能である。</p>	

<p>ネオオスミウムコータ Neoc Pro はプラズマ CVD 成膜を採用したオスミウム金属被膜を製膜するための機器。真空チャンバー内に四酸化オスミウム昇華ガスを導入し、直流グロー放電によりプラズマ化させて金属被膜を作製する。Neoc 電極は特殊改良された平行平板電極を使用しており、試料ステージ全域で負グロー相領域の高さが均一となり、オスミウムをアモルファス（非晶質）コーティングできる。その結果、形成された導電被膜により、極薄膜でも試料は電子線ダメージを受けなくなる。</p>	
<p>イオンミリング装置 E-3500 は、SEM 試料などに Ar イオンビームを照射して、試料表面の原子を弾き飛ばすことにより、微細な傷や汚れを除去して多層膜の断面を得るときに用いる機器。応力レス加工を特長とするイオンスパッタリング現象を用いることにより、試料表面の平坦加工を行うことができる。応用範囲は広く、半導体デバイス分野や機能材料分野を始め、あらゆる産業分野の研究・開発から品質管理など多方面で活用されている。</p>	
<p>精密イオンポリッシング装置は、アルゴンイオンビームを試料表面に照射し、エッチングによる各種試料の薄膜化する装置。イオンミリングや電解研磨でカバーしきれない金属、有機 EL、化合物半導体などの TEM 観察用薄膜試料の作製に使用される。</p>	
<p>超音波ディスクカッターは 3 mm の TEM ディスクに収まらない脆性材料から、ディスク状またはオリジナル形状に切り出す装置。圧電性結晶体を利用して筒状の切断ツールを駆動し、細粒度の炭化ホウ素スラリーを利用して、40 μm 未満から 5 mm までの厚みの材料を切り抜くことが可能。専用の双眼実体顕微鏡と X-Y テーブルを使用することにより、目的の箇所を視野の中央に、精密に位置合わせすることができる。セラミックスや半導体物質のウェハーから TEM 用ディスクを精密に打ち抜くことができる。</p>	
<p>ダイヤモンドワイヤーソー DWS3242 は試料の断面観察やイオンミリングの前処理として用いられる装置。試料の精密な位置合わせができ、切断部位を確認することが可能。つなぎ目のないワイヤーを使用し、切断時の熱を水の使用なしで放出し、切断層もたまりにくいので、多層膜試料、硬さの異なる試料などの複合材料でも割れやクラックなく切断できる。</p>	
<p>デジタルマイクロスコープ DVM5000 は高解像モニターが搭載され、高画質ライブ表示で観察ができる装置である。最適な観察倍率に可変できるズーム機構で、従来の顕微鏡では難しかった、大きな対象物の非破壊検査、表面観察も容易に行える。ライカ伝統と実績の高い光学機能に、多機能な計測・解析モジュールを標準搭載したオールインワンシステムにより、2D 解析はもちろん、高度な 3D 解析も可能である。</p>	


2. 走査型プローブ顕微鏡システム (SPM) 【機器分析室 6】

走査型プローブ顕微鏡 (SPM) は、測定試料と探針間に働く原子間力またはトンネル電流を検出することにより、試料の表面のミクロな部分の形状、摩擦などの情報を得る装置である。ユニットの交換により、原子間力顕微鏡 (AFM)、走査型トンネル顕微鏡 (STM)、摩擦力顕微鏡、電気化学 AFM・STM、マイクロ粘弾性 AFM などの測定が可能である。

<p>高精度大型プローブ顕微鏡ユニット AFM5400L は 8 インチ(20.32 cm) ϕ \times 22 mm (厚さ) 程度の大きさの試料まで対応可能である。光学顕微鏡を備え、装置の調整、試料の位置合わせが容易にできる。データ処理部は高速フーリエ変換 (FFT) を始めとする各種のフィルターおよび画像解析プログラムを有し、視覚に訴える 3 次元画像を作成することができる。</p>	 A photograph of the AFM5400L probe microscope system. It consists of a large white base unit with a sample stage, a computer workstation with multiple monitors, and various cables and accessories.
<p>環境制御型ユニット AFM5300E は 20 mm ϕ \times 10 mm (厚さ) までの大きさの試料に対応可能で、温度可変 (-120 ~ 300°C) および真空下で測定可能な設備を備えている。光学顕微鏡を備え、装置の調整、試料の位置合わせが容易である。電気化学 AFM・STM、真空中および温度制御分析には AFM5300E を用いる。データ処理部は FFT を始めとする各種のフィルターおよび画像解析プログラムを有し、視覚に訴える 3 次元画像を作成することができる。</p>	 A photograph of the AFM5300E probe microscope system. It features a smaller white base unit with a sample stage, a computer workstation, and a specialized environmental control chamber for temperature and vacuum regulation.

3. X 線光電子分光分析装置 (XPS) 【機器分析室 7】




X 線光電子分光分析 (XPS) は物質表面の元素組成や化学結合状態の分析として最も広く使用されている。超高真空中で、励起源として $AlK\alpha$ 、 $MgK\alpha$ などの軟 X 線を試料に照射し、極表面にある元素 (Li ~ U) のイオン化に伴い放出される光電子を補足して、エネルギー・アナライザーで測定する。

<p>Quantero-SXM-GS は固体極表面の数原子層での元素組成や化学結合状態の分析が可能である。分析できる試料表面からの深さは 0.5 ~ 5 nm ほどで、走査電子顕微鏡のエネルギー分散型 X 線分析装置 (SEM-EDX) などと比べて、物質の極表面の分析に適している。元素由来の光電子スペクトルで示される電子の原子核に対する結合エネルギーと放出された光電子の強度から、元素の同定、定量分析ができるほか、光電子ピークの微妙な化学シフトから、目的とする原子の化学結合状態も求めることができる。</p>	 A photograph of the Quantero-SXM-GS XPS system. It shows a large, complex piece of scientific equipment with a control panel, a computer workstation with multiple monitors, and a specialized ultra-high vacuum chamber for X-ray photoelectron spectroscopy.
---	--

4. 高分解能質量分析システム【機器分析室1】

質量分析 (Mass Spectrometry) では、目的に応じたイオン化法により試料分子をイオン化させ、生じた分子イオンやフラグメントイオンは、分析部の様々な仕組みにより質量が決定される。分析部としては、二重収束型 (Double-focusing)、四重極型 (Quadrupole, Q)、飛行時間型 (Time-of-Flight, TOF) などがある。5種類の装置が設置されており、化合物の種類や測定の目的別に機種を選択することができる。

機種名	通称	仕様	イオン化法	検出法	測定可能範囲	分解能
JMS-MSation 700	700	MS GC/MS (LC/MS)	EI/CI FAB ESI	二重収束	1 ~ 2,400	60,000
JMS-AMSUN200/GI	K9	GC/MS	EI/CI	四重極	1 ~ 1,000	> 2,000
GCmate II	GCmate	GC/MS	EI/CI FAB	二重収束	1 ~ 1,000	5,000、3,000 1,000、500
JMS-T100LP	AccuTOF	MS LC/MS	ESI DART	TOF	1 ~ 1,200	6,000
AXIMA-Resonance	AXIMA	MS MS/MS	MALDI	TOF	100 ~ 12,000 100 ~ 5,000	> 8,000

<p>JMS-MSation 700 は全てコンピュータ制御されており、イオン源などの各種パラメータのオートチューニング機能がある。試料は電子イオン化 (electron ionization, EI) 法、化学イオン化 (chemical ionization, CI) 法等で試料がイオン化される。検出器は磁場セクターと電場セクターを配置した二重収束型である。高加速イオン源と高電圧印加コンバージョンダイノード型イオン検出器により、正負イオンの高感度測定が可能で、高質量領域においても正確に質量を決定できる。</p>	
<p>GCmate II は析部に二重収束光学系をもつ、全自動制御のルーティン分析を対象とした卓上型の GC/MS 装置である。定量分析・定性分析のみならず、精密質量測定を行える性能を備えている。測定質量範囲は、加速電圧 2.5 kV で 1 ~ 1,000 ダルトン、1.25 kV で 1 ~ 2,000 ダルトンで、分解能は 4 段切り替えである。イオン源は EI, CI, FAB である。</p>	
<p>AMSUN200 (K9) はガスクロマトグラフ (GC) が試料導入部として直結された、四重極型の卓上 GC/MS 装置である。四重極型の分析部は4本の電極ロッドからなり、直流電圧と交流電圧をかけることにより、特定の m/z 値のイオンだけを通過させる電場を形成する。測定可能な質量範囲は交流電圧で決まるので、直流電圧と交流電圧の比を一定に保ち、交流電圧を直線的に変化させることにより、特定のイオンを通過させ分離する。R4年度、アルファ・モス・ジャパン株式会社製 GC 用オートサンプラ HT2800T が導入され、液体注入に加えてヘッドスペース、SPME での試料注入が可能になった。オートサンプラーは、R5年度名古屋大学へ管理換え。</p>	

<p>JMS-T100LP (AccuTOF LC-plus) では、ESI 法により高分子をフラグメント化することなくイオン化し分析できる。一方、DART 法を用いると、低極性から高極性までの幅広い試料を前処理することなしに分析が可能である。DART によるイオン化は励起状態のヘリウムが大気ガスおよび試料と相互作用することに基づいており、通常の分析機器では扱うことのできない、不定形の試料や汚れた試料もそのまま分析できることが特徴である。</p>	
<p>AXIMA-Resonance で用いる MALDI 法は代表的なソフトイオン化法で、生体高分子（ペプチドや糖質）の質量分析ができる。マトリックス試料は、波長 337 nm の窒素レーザー光により、その最表面（～100 nm）が数 nsec で急速加熱され、気化される。四重極イオントラップ（QIT）を使用しており、イオン化時での初期エネルギーのばらつきによる精度の低下を防いでいる。また、QIT により試料の連続的な開裂が可能となり、糖質などの構造解析に必要な多段階 MS スペクトルが得られる。</p>	
<p>Agilent 1100 series の MS-52011LC は、検出器として、紫外可視分光検出器（190～600 nm）、蛍光検出器（280～900 nm）、示差屈折率検出器（屈折率 1.00～1.75、室温+5～55℃ の範囲で一定に設定可）を備えており、ほとんどの有機化合物は高感度で検出できる。また、AccuTOF に接続し LC/MS として、質量分析のための目的物質の分離が可能である。</p>	
<p>AXIMA-Resonance とペアで使用するため、nanoLC 自体は検出器を持たない。AXIMA-nanoLC の分析対象となるタンパク質やペプチド検体は、極めて微量なことが多く、MS での感度向上のため、微量流量が精密に制御されたハイエンド HPLC である。流量範囲は 0～5,000 nL/min（1 nL step）で、高圧グラジエントモード（ステップ、リニア）は多段で設定することができる。</p>	
<p>JASCO EXTREMA は、ポンプに低圧グラジエントポンプ、検出器として PDA 検出器（190～900nm）、蛍光検出器（200～900 nm）を備えており、高感度な検出ができる。また、オートサンプラーを使用した自動測定が可能である。更に遠隔用のソフトウェアにより測定状況を遠隔地から確認することが可能である。</p>	

5. フーリエ変換核磁気共鳴装置（FT-NMR）【機器分析室 2】

核磁気共鳴（Nuclear Magnetic Resonance, NMR）は分子の構造や物性を知る最も重要な分析法の一つで、超電導磁石による高磁場が実現され、フーリエ変換法およびコンピュータなどの進歩により、種々の分子を容易にかつ高精度に分析することが可能になった。柳戸地区には 3 台の FT-NMR が設置されている。いずれの機種もオートチューンユニットをデフォルトとして設定しており、核種の切替え、並びに、温度や溶媒の違いにより必要となるプローブのチューニングやマッチングの

操作がコンピュータにより自動的に実行される。また、ECA500 および ECZ600R はオートチューンプローブだけではなく固体プローブを装備しているため、固体サンプルの測定が可能である。

ECA500 では、通常測定 (^1H , ^{13}C , DEPT, COSY) のみならず、パルス磁場勾配法 (Pulsed Field Gradient, PFG) を用いて、効率的な 2 次元 NMR 測定、並びに、HMBC、HMQC、TOCSY、DOSY を含む様々な測定手法を実施することができる。本装置はインバースプローブを装備しており、 ^1H に特化した感度の高い測定も可能である。さらに、固体 NMR 測定ユニット NM-93030CPM が装備でき、固体化学、生体高分子分野にも応用可能である。超伝導マグネット基準磁場は 11.74 T である。



ECZ600R/M1 は高感度、高分解能を有し超伝導マグネット基準磁場は 14.09 T である。本学の NMR において初めて遠隔自動測定に対応した固液兼用 NMR である。この構成により学内の各学部の講義実習に活用されている。液体プローブ; ROYAL プローブ HFX は ECA, ECX オートチューニングプローブに対し約 2 倍の感度を有し、2 重共鳴と 3 重共鳴を自動的に切替え可能なプローブである。例えば ^{13}C 測定時に ^1H , ^{19}F 核を同時照射しデカップリングした測定が可能である。また、3.2mm 固体オート MAS プローブはオートサンプルチェンジャーとオートチューニング、オート MAS による自動的な測定が可能である。



ECX400P では、通常測定 (^1H , ^{13}C , DEPT, COSY) のみならず、パルス磁場勾配法 (Pulsed Field Gradient, PFG) を用いて、効率的な 2 次元 NMR 測定、並びに、HMBC、HMQC、TOCSY、DOSY を含む様々な測定手法を実施することができる。超伝導マグネットの基準磁場や磁場の調整精度は異なるが、ECZ600R と同様に、様々な測定手法を実施することができる。超伝導マグネット基準磁場は 9.39 T である。



6. 電子スピン共鳴装置 (ESR) 【機器分析室 7】

電子スピン共鳴 (Electron Spin Resonance ; ESR) 装置は、試料の形状 (液体、気体、固体) に影響されることなく、非破壊で、選択的にフリーラジカルを測定できる唯一の手段である。ESR の測定対象は、不対電子 (unpaired electron) であるため、不対電子を持つ物質はすべて測定可能である。鉄や銅などの金属イオンは、古くからそれらを含む錯体の構造解析が行われてきたが、これらの金属イオンを含むタンパク質も測定可能であり、酵素などの生体試料の構造機能解析に係る研究にも広く用いられるようになった。

JES-FA100 は、フルコンピュータコントロール／Windows オペレーションが可能で、これまでは、共振周波数を探し、フェーズとカップリングアイリスをマイクロ波のパワーを変えながら調整していたが、本装置ではジャストカップリングのためのマイクロ波調整は "AUTOTUNE" ボタン一つで完了できる。オペレーション画面はスペクトル取りこみ画面とデータ処理画面の2つで構成されている。ESR 測定条件のほか、連続測定－自動保存、測定温度設定、その他の条件を各ウィンドウから設定できる。



7. 誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES) 【機器分析室 7】

電子材料、セラミックス、超伝導材料等の先端材料や生体試料中に存在する微量元素、水、土壌、大気など環境中に存在する元素を解明することが、物質の諸性質を研究する上でしばしば必要となる。誘導結合プラズマ発光分析 (Inductively Coupled Plasma-Atomic Emission Spectrometry, ICP-AES) は、このような目的に対して有用であり、多元素 (殆どの金属元素、並びに、ホウ素、炭素、ケイ素、リン、硫黄などの幾つかの非金属元素を含めた 70 以上の元素) を同時に極微量から高濃度までの広い濃度範囲に渡って、定性的かつ定量的に分析することができる。ICP とは、Ar などの希ガスに高電圧をかけてプラズマ化し、高周波数の変動磁場によりプラズマ内部に過電流を生じさせて得られる高温プラズマのことである。

ULTIMA2 は Ar の高周波誘導結合プラズマを励起源としており、無機物や有機物中の 75 元素を同時に測定できる超高感度元素分析装置である。自己吸収が殆どなく、ダイナミックレンジは 10^6 と広いので、試料中の主成分から極微量成分まで分析することが可能である。試料も少なくすみ、1 分間当たり 1 ml の注入量にて 2 分程度で、元素の種類と各々の含有量を分析できる。本装置には、超純水製造装置 (Advantec RFD250NB) とマイクロ波分析前処理装置 (MARS6) が付属している。



MARS6 はマイクロ波を利用し、密閉容器内で固体試料を酸分解したり、高温・高圧下で有機合成したりするための機器である。本装置には非接触 in-situ 温度センサーが搭載されており、ワイヤレス iWave テクノロジーを用いることで、容器ではなく、試料溶液の温度を直接計測することができる。正確な計測により、酸分解プロセスや有機合成反応を精密に制御することが可能である。



8. 波長分散型蛍光 X 線分析装置 (XRF) 【機器分析室 7】

試料に X 線を照射すると、その物質を構成する元素の内殻の電子は一定以上のエネルギーをもつ X 線により励起され、軌道に空孔が生じる。蛍光 X 線 (X-ray Fluorescence, XRF) とは、その軌道へ外殻の電子が遷移する際に放出される特性 X 線のことをいう。その波長は元素特有の内殻と外殻のエネルギー差に対応している。波長分散型 XRF 装置では、複数の分光結晶を切り替えられる検出器を用いて、特定波長の蛍光を分析する。通常、測定可能元素は B から U であり、10 eV 程度のエネルギー分解能を有する。

S8 TIGER は、粉末、薄膜、機能材料などに X 線を照射して、物質から放出される蛍光 X 線を測定し、含まれる元素について定性・定量を行う装置である。軽元素から重元素まで、固体・液体・粉体の状態で、ppb レベルまで測定が可能である。ゴニオメータの角度再現性 ($\pm 0.0001^\circ$) が良く、かつ高速であり (スキャンスピード 1,2000°/min)、優れた分析精度を有する。検量線がない未知試料の分析には、ファンダメンタルパラメーターソフトウェアによる最速 2 分のデジタルスキャンクリーニングができる。



9. 有機微量元素分析システム (OEA) 【機器分析室 3】

有機物は完全に燃焼分解して還元銅を通過すると、 H_2O 、 CO_2 、 N_2 ガスとなる。有機微量元素分析装置 (Organic Element Analyzer, OEA) は、完全燃焼により生成した H_2O 、 CO_2 、 N_2 ガスをそれぞれ熱伝導度検出器で定量して、試料の構成元素 C・H・N 量を測定する装置である。その分析結果から化合物の純度や組成などを求め、化合物の同定を行う。微量元素分析は化学、医学、薬学及び農学などで広く利用されている。

本システムは **CHN Analyzer MICRO CORDER JM-10**、硫黄分析ユニット **JMSU10** およびオートサンプラー **JMA102** からなる。JM-10 は固体から液体まで、幅広い分野で使用可能な装置で、完全燃焼により生成した H_2O 、 CO_2 、 N_2 ガスを、それぞれ独立した熱伝導度検出器で定量して、試料の構成元素 C、H、N の比率を決定することができる。硫黄は専用の JMSU10 の燃焼管と還元管を用いて測定する。JMA102 により 20 検体の連続分析が可能である。






10. 超高速現象解析システム 【セミナー室】

本システムでは、ナノ秒 (ns) オーダーまでの自然界の様々な超高速現象、たとえば稲妻の伝播過程、材料の破壊過程、乱流の発生過程、さらにはマイクロなレベルでの半導体中の電子-正孔反応などを、光もしくは熱によって、あるいはフォトルミネセンス現象を通してリアルタイムで追跡し、解析することができる。大きく分けて高速度撮影カメラ・ビデオシステムと高速度赤外線カメラの 2 つのシステムから構成されている。当分野には、超高速撮影装置 **HyperVision HPV-2A**、汎用高速度撮影装置 **MEMRECAM GX-8**、高速度赤外線カメラ **SC7500STEC** などがあり、必要に応じて、1 日単位で撮影機器と三脚を貸し出している。

高速度撮影カメラ・ビデオシステム **HyperVision HPV-2A** は最大撮影速度 100 万コマ/秒の時間分解能を持ち、最大 100 枚の画像を記録することができる。解像度は 312×260 の 8.1 万画素。モノクロ 10 bit。撮像データは USB を通して、BMP、AVI、JPEG、TIFF format で出力できる。任意のフレームにトリガー信号を入れることができ、超高速の現象の撮像に適している。



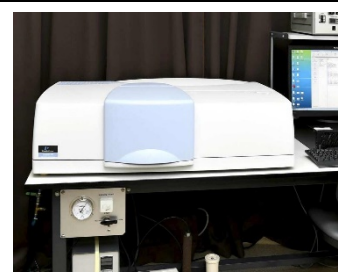
<p>MEMRECAM GX-8 は、1280×1024 の解像度で 2916 コマ/秒の撮影が可能。1024×768 の解像度で 4628 コマ/秒、最大で 60 万コマ/秒まで撮影可能（16×4 ピクセル）。モノクロで感度は ISO20000。フルフレームでの最大撮像コマ数は約 5000 枚。F マウントおよび C マウントのレンズが装着可能。トリガーモードを適切に設定することで、ビデオカメラ感覚で簡単に高速現象を捉えることができる。PC なしでのリモコン操作も可能で、外部トリガーと連動させて、超高速度現象の撮影もできる。</p>	
<p>FLIR SC7500STEC は 1.5 μm ~ 5.1 μm の中赤外域を検出する InSb 素子を搭載した超速度赤外線カメラ。3.5 μm ~ 5.0 μm を透過する赤外線レンズを標準装備。320×256 の解像度で 380 コマ/秒の撮影が可能。最大撮像速度は 20000 コマ/秒（64×4 ピクセル）。外部トリガーと連動させて、高速度現象を中赤外波長で捉えることができる。ふく射率が既知であれば、物体表面の温度分布の計測が可能。</p>	
<p>サーマルビジョン LAIRD 3ASH は 1280×1024 の解像度で 2916 コマ/秒の撮影が可能。1024×768 の解像度で 4628 コマ/秒、最大で 60 万コマ/秒まで撮影可能（16×4 ピクセル）。モノクロで感度は ISO20000。フルフレームでの最大撮像コマ数は約 5000 枚である。トリガーモードを適切に設定すれば、ビデオカメラ感覚で簡単に高速現象を捉えることができる。PC なしでのリモコン操作も可能で、外部トリガーと連動させて、超高速度現象の撮影もできる。</p>	
<p>パルスジェネレータ DG-535 は 4 チャンネル遅延出力、2 系統パルス出力を備えた遅延パルス発生器である。時間分解能 5 ps、トリガー出力のジッターは 50 ps 以下。複数の測定機器および実験装置の同期を必要とする際に有用である。</p>	

11. 分光光度計（紫外可視・赤外）・旋光計【機器分析室 3】

I) 紫外可視分光光度計（UV-Vis）

物質による紫外及び可視領域（約 200 ~ 700 nm）の光の吸収はその分子内の電子構造に依存しており、電子が基底状態における軌道から高いエネルギーの軌道へ遷移することによりおこる。例として、遷移金属化合物における d-d 遷移や二重結合を有する有機化合物の π - π^* があげられる。そのため、紫外可視吸収スペクトルからそのような化合物の同定や定量が、さらには未知化合物の電子状態の検討が可能である。

Lambda 950 は光学系全体を窒素パージすることにより、紫外側は 175 nm の波長範囲まで測定できる。エネルギーを最適化した光学系は、紫外可視近赤外の全領域で、優れた SN 比 (500 nm で 0.00005 Abs 以下) を有する。UV WinLab ソフトウェアにより、スキャン、時間、多波長、濃度測定が簡単に操作でき、通常の吸収スペクトルに加え、拡散反射や正反射のスペクトルの測定もできる。



II) フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR)

赤外分光法 (Infrared spectroscopy, IR) では、物質による赤外線 (約 5,000~300 cm^{-1}) の吸収はその分子の振動構造に依存しており、1 個の振動エネルギーの変化に伴って多数の回転エネルギー変化が起こるので、振動スペクトルは振動吸収帯として現れる。吸収の振動数あるいは波長は、振動部分の換算質量、化学結合の力の定数および原子の幾何学的配置に依存するので、赤外スペクトルから分子構造を解析することができる。フーリエ変換型 IR (FT-IR) では、赤外光をビームスプリッターにより 2 つの光路に分け、固定鏡と移動鏡で反射された光の光路差により干渉波ができる。試料を透過した干渉波から、検出器でフーリエ変換により波数成分に分離された IR スペクトルが得られる。

Spectrum100 はマイケルソン型干渉計を備えた高分解能、高波数精度、高感度のフーリエ変換型赤外分光光度計である。スペクトルの積算測定や高速測定が可能で、スペクトルの数学的な処理 (加減乗除、微分積分など) が容易に行える。また、HATR (水平型内部多重反射測定装置) の使用により、従来の赤外分光光度計では測定が難しいとされた水溶液、ペースト等についてもスペクトルを得ることができる。



顕微 IR 460Plus は、微小、微量サンプルだけでなく、従来、マクロ分析されていた試料も顕微鏡を使用して容易に計測でき、応用範囲が広い。例えば、数十 μm 程度の微小・微量サンプル、あるいは不均一試料中の特定部位の非破壊測定が可能であり、新素材、新しい微細デバイスの表面分析に威力を発揮できる。さらに、本システムは電場 ATR (全反射) ユニットの備えており、微小反応場におけるリアルタイムでの計測が可能である。顕微測定は現在停止中。



ReactIR 4000 は棒状のプロブ (6 mm) を溶液中に直接差込んで赤外吸収スペクトルを測定することが可能である。連続的な測定により実際の反応条件における分子のリアルタイムな動的化学変化を定量的に可視化できる。例えば、化学反応中にのみ存在する微量の反応中間体の同定が可能で、原料の消失速度、生成物の生成速度をピーク強度の変化から定量的に観察することができるため、化学反応機構、次数の解析に多いに役立つ。現在停止中。



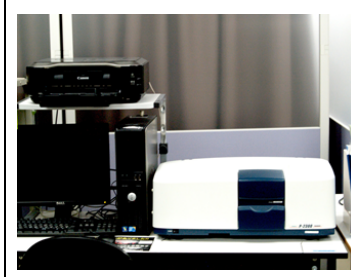
FT/IR-4700 は SN 比の高い、コンパクトなフーリエ変換型分光光度計で、ルーティンの分析に適している。マルチチャンネル赤外顕微鏡に対応しており、ラピッドスキャン測定が可能である。測定波数範囲は $7800\sim 350\text{ cm}^{-1}$ で、SN 比は 25000:1 である。ビームスプリッタには KBr に蒸着された Ge が用いられている。高輝度セラミックを光源とし、オートアライメント機構を有する密閉型の 45° 入射マイケルソン干渉計が備えられている。



III) 旋光計 (Polarimeter)

旋光 (optical rotation) とは、直線偏光が糖などの光学活性を有する物質中を通過した際に回転する現象である。一般的に、有機分子とその対掌体は光学異性体対をなし、一方の立体配置が *R* 配置ならば、もう一方の配置は *S* 配置と呼ばれる。デキストロース (dextrose : 右旋糖、ブドウ糖) の名称は直線偏光を右 (dexter) 側に、レブロース (levulose : 左旋糖、フルクトース) は左 (levo) 側に回転させる現象から命名された。純物質の溶液の場合、色と経路長が一定で比旋光度が分かれば、観測された旋光度から濃度を求めることができる。例えば、不斉合成により得られた生成物の光学純度を決定することができる。

P-2300 は、ナトリウム-水銀ランプのデュアル光源と、二つの複屈折プリズムで構成された側面にエスケープ窓の無いグランティラー偏光子を有する旋光計で、輝線を用いた高精度な測定が可能である。光源としては汎用的にハロゲンランプが使用でき、光源として同時に 2 種類まで本体に搭載できる。測定波長は 589, 578, 546, 436, 365 m (オプション波長対応) で、測定方式として、対称角振動方式光学零位法を用いている。



12. 円二色性分散計 (CD spectrometer) 【機器分析室 3】

有機分子が対掌体と重ね合わせることができない立体配置をもつとき、その性質をキラリティーといい、左回り円偏光と右回り円偏光を異なった強度で吸収する。この性質を円偏光二色性 (Circular Dichroism, CD) という。一般的に、有機分子とその対掌体は光学異性体対をなし、一方の立体配置が *R* 配置ならば、もう一方の配置は *S* 配置と呼ばれる。生体では光学異性体対の一方のみが存在しており、構成される高分子が立体的にうまく折り畳まれた状態 (高次構造) で、その独自の機能は発現するようになる。左回り円偏光と右回り円偏光に対する吸光度の差を波長に対してプロットしたものが CD スペクトルであるが、これはその分子の絶対配置に固有のパターンを示す。

J-820P は、光学活性な物質の円偏光を測定する装置であり、タンパク質の2次構造含量など、光学活性な物質を含む生体高分子の構造解析に用いられる。生体分子の高次構造の解析では、対掌体のうちのいずれが存在するかを決定することは重要である。CD スペクトルは生体高分子の絶対配置に固有のパターンを示すので、得られた CD スペクトルを高次構造が既知のスペクトルと比較検討することにより、生体から得られた未知物質の絶対配置の決定が可能となる。



13. フォトルミネッセンス分析システム【機器分析室 3】

フォトルミネッセンス (Photoluminescence, PL) 分析では、物質に電磁波を照射し、励起された電子が基底状態に戻る際に放出する蛍光 (fluorescence) やりん光 (phosphorescence) を測定して、発光スペクトルを解析する。発光スペクトルは物質中の不純物や結晶中の欠陥により影響を受けるので、これらの情報が得られる。例えば、半導体材料における不純物種や結晶性、混晶組成比などの分析に用いられる。機種により、蛍光材料や発光デバイスの評価ができる

Quantaurs-Tau は、サブナノ秒～ミリ秒の蛍光寿命を測定する装置である。簡単な操作にて高精度な蛍光寿命・PL スペクトルを短時間で計測できる。蛍光寿命の応用例は多岐に渡り、有機金属錯体の分子内・分子間電子移動やエネルギー移動反応、有機 EL 素子開発に必要な材料の蛍光やりん光寿命計測、蛍光蛋白質の FRET (エネルギー移動)、LED 用の化合物半導体の良否判定などがある。同じ波長でも蛍光寿命の異なる物質が複数存在する場合、存在比率より多くの情報が得られる。



Quantaurs-QY は、フォトルミネッセンス法により、発光量子収率の絶対値を瞬時に測定する装置である。計測ソフトウェアに数項目を指示するだけで、発光量子収率や励起波長依存性、PL 励起スペクトルなどを短時間で計測できる。1分ほどで解析結果を導き出すことも可能で、開発から応用研究までの様々な分野で用いられている。溶液、粉末、固体、薄膜に対応し、溶液試料を液体窒素温度に冷却することもできる。



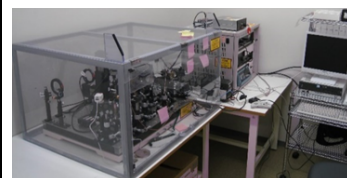
FP-8600 は、光を試料に照射しエネルギーを吸収し、発光するフォトルミネッセンス (蛍光・燐光) を測定する蛍光分光光度計である。また、検出感度を自動的に調整するオートゲイン、オート SCS 機能、自動高次光カットフィルターを装備し、従来の燐光寿命測定と燐光スペクトル測定に加え、燐光による固定波長測定、定量測定、時間変化測定を行うことができる。溶液、粉末、固体、薄膜に対応が可能で、溶液試料を液体窒素温度に冷却することもできる。



14. テラヘルツイメージングシステム【機器分析室 8】

テラヘルツ (THz) 領域には、軽い分子の回転運動や分子振動の低周波数成分、水素結合のような分子間振動、分子内の内部回転運動の周波数などがある。近年、フェムト秒レーザーの普及にともない、THz 時間領域分光法を用いた解析が急速に発展し、分子の構造や運動状態についての多くの情報が得られるようになった。

THz-TDS で発生・検出する電磁波の周波数帯域は THz である。テラヘルツ光は遠赤外光とも呼ばれ、その波長は電波と赤外線との間にあり、双方の特徴を持ち合わせている。分光学的には水素結合やファンデルワールス力に支配される弱い相互作用の振動モードが含まれる。光学系の配置と制御ソフトウェアにより、空間分解しない 2 次元走査/3 次元走査と透過/反射の選択ができる。レーザーのアライメントモジュールが用意されており、精密な調整 ($< 10 \mu\text{m}$) ができる。現在停止中。



BS-60YSAISIN は、クラス 3B のフェムト秒ファイバーレーザーであり、波長 780 nm、1,560 nm の 2 波長同時出力ができる。パルス状レーザーは、ともに、パルス幅 $< 100 \text{ fs}$ 、平均出力 $> 20 \text{ mW}$ 、繰り返し周波数 $50 \pm 2 \text{ MHz}$ である。ビームは縦偏光で、ビーム径はそれぞれ $2.5 \pm 0.5 \text{ mm}$ (780 nm)、 $4.0 \pm 1.0 \text{ mm}$ (1,560 nm) である。冷却水等は不要で、レーザーヘッドと制御装置のみで動作する。同期信号出力端子 (SMA) より、レーザー繰り返し周波数に同期した電気パルス信号が出力される。現在停止中。



15. レーザーラマン分光システム (LRS)【機器分析室 3】

レーザーラマン分光法 (Laser Raman Spectroscopy, LRS) は最も汎用性のある分光分析法の一つとして利用されている。この分光法では、照射されたレーザー光と物質との相互作用により散乱されるラマン光を測定することにより、化合物の分子種、原子団の種類、結合結晶構造、分子の配向特性などの情報が得られる。ラマン分光法は、赤外など他の分光法に比べてサンプリングが容易で、固体、液体、気体などを問わずに非破壊分析が可能で、さらに、*in-situ* 分析ができるなどの特長を有する。それ故、半導体、ナノ材料、機能性有機高分子の構造解析に不可欠な手段となっている。最近では、タンパク質などの生体高分子の機能発現メカニズムに関する研究に威力を発揮している。

NRS-1000 の励起レーザー波長は 532 nm で、安定的に使用できるように装置は空冷されている。レーザー光に対する安全対策として、クラス I (JIS 規格) 相当でインターロックシステムに対応する高感度冷却型 CCD 検出器が搭載されている。532 nm 励起でラマンシフト値は $100 \sim 8,000 \text{ cm}^{-1}$ の範囲で測定可能である。真空、高圧などの条件を必要とせず、マイクロ分析からマクロ分析まで対応でき、共焦点光学系により最小 $1 \mu\text{m}$ までの試料を測定することができる。現在停止中。



16. 熱分析システム (EXSTAR-6000 Series) 【機器分析室 3】

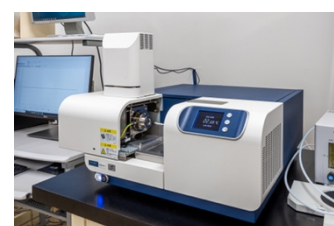
熱分析は、温度変化にともなう物質・材料の構造変化を調べる方法である。化合物や材料のさまざまな熱現象（融解、ガラス転移、結晶化、硬化や重合等の反応、昇華・蒸発、熱分解・脱水、熱膨張・熱収縮、熱履歴など）の解明という基礎研究や、新規開発材料の熱特性の評価、生産部門での品質管理などの応用研究まで幅広く利用されている。測定対象としては、有機物か無機物であるかを問わず、低分子化合物から高分子材料まで、あらゆる分野の化合物・材料をカバーしている。

当分野には、熱分析システムとして、①示差走査熱量計（differential scanning calorimetry, DSC）②熱重量・示差熱同時測定装置（thermo-gravimetry/differential thermo-analysis, TG/DTA）③熱機械分析装置（thermomechanical analyzer, TMA）が設置されている。

示差走査熱量計（DSC）は、試料の状態変化による吸熱反応や発熱反応を測定する装置である。**DSC6100**（左、温度範囲：-150～500°C）は生命科学におけるタンパク質溶液などの高感度測定用である。冷却は液体窒素溜めクーリングカンを使用する。試料の吸熱・発熱に伴う熱流の変化を検知し、熱容量、反応温度などが測定できる。**DSC6200**（右、温度範囲：-150～725°C）は固体以外に液体も測定可能で、試料と基準物質に一定の熱を加えて両者の温度差を捉え、試料の状態変化や結晶化などが分析できる。



熱重量・示差熱同時測定装置（TG/DSC）は、試料の加熱に伴う重量変化を検出し、基準物質との温度差を温度関数として測定する装置である。**NEXTA STA300**は温度をプログラムに従って変化させながら、試料の重量変化と吸熱・発熱を測定することができる装置である。安定性に優れかつ高感度な水平差動方式を採用しており、測定範囲は室温から1500°Cまで、TG ベースライン性能は10 µg 以下である。熱安定性や熱分解挙動を評価することができる。



熱機械分析装置（TMA）は、プログラムに従って試料の温度を変化させ、その過程で、試料に一定荷重を加えながら、温度に対する変形を測定する装置である。**TMA/SS6100**と**TMA/SS6300**では、炉体とプローブは異なるが、共通の測定ユニットを使用する。測定範囲は室温から1500°Cまで、目的により、膨張・圧縮、針入、引張りプローブを使用する。温度変化に対して、試料の熱膨張や軟化等の変形が起こると、それに伴う変位量がプローブの位置変化量として計測される。



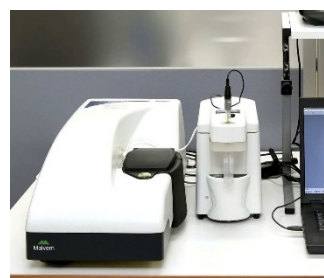
17. 粒子解析システム【機器分析室 3】

当分野には、粒子の形状や特性を解析するための装置として、マルバーンのフロー式粒子解析装置 FPIA-3000 と粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置 Zetasizer Nano ZS が設置してある。

FPIA-3000 は粒子画像から粒子形状や径に関する情報を出す装置である。大きさと形の情報を二次元で解析することができる。また、個々の粒子の情報を計測するのみならず、多量の粒子を一度に測定することが可能で、統計的信頼性を確保できる。測定範囲は $0.5\ \mu\text{m}$ ~ $160\ \mu\text{m}$ で、レンズ交換により $0.25\ \mu\text{m}$ ~ $300\ \mu\text{m}$ の範囲の粒子を測定でき、暗視野コンデンサーを使用することで輪郭が不明確な画像へも対応できる。1回の測定で、最大約 36 万個の粒子を短時間（約 2 分）で測定し、連続測定も可能である。



Zetasizer Nano ZS はレーザー散乱光を用いて粒子径を測定する、非接触後方散乱（non-invasive backscatter, NIBS）光学系を利用した高性能な 2 角度検出系の分析装置である。1 台でナノサイズ粒子の粒子径、分子量、拡散係数、ゼータ電位、粘弾性などが測定可能である。例えば、ゼータ電位により、コロイド粒子の分散・凝集性や相互作用など、界面の性質を評価することができる。各測定を組み合わせることにより、粒子の構造や分子レベルでの修飾について解析することも可能である。



18. 粘弾性測定システム【機器分析室 3】

当分野には、粘弾性を測定するためのレオメーター（Rheometrics）AR-G2 KG と動的粘弾性測定装置（Dynamic viscoelasticity Measuring Apparatus, DMA）Q800 KG が設置されており、多種多様な粘弾性測定に対応できる。

レオメーターは応力を制御して、主に液体サンプルの粘弾性特性を測定する装置である。**AR-G2 KG** は、超低ナノトルクコントロールを可能にする、磁気浮上方式ベアリングテクノロジーを世界で初めて採用したレオメーターである。ドラッグカップモーター、スマートスワップジオメトリ、イーサネットコミュニケーションなどを有する。幅広いトルク範囲、優れた歪分解能、広範囲な周波数などの特徴を持ち、固体、低粘度溶液、溶融ポリマー、反応物質などに適用でき、その応用範囲は広い。



DMA Q800 KG は非接触式で、応力を正確にコントロールするリニアドライブテクノロジーや低摩擦であるエアベアリング等の最先端技術を搭載している。材料の弾性と粘性の両方の性質は、2つの歪は感度と分解能の高いオプティカルエンコーダテクノロジーを使って測定する。正弦波（入力と出力）間の位相差で、正弦波の歪（応力）と正弦波の応力（歪）を課して調べることが可能である。本装置は一段と高い性能を有し、特に複合材料のような固い材料に最適である。



19. 物質微細構造解析システム【機器分析室 7】

当分野には、物質の微細構造を詳細に解析する X 線マイクロ CT スキャンが設置されている。X 線マイクロ CT スキャン SKYSCAN 1172-GU は、工業材料・食品・生体試料・有機材料・軽金属等のサンプルの三次元内部構造を非破壊・高分解能で観察できる。

SKYSCAN 1172-GU は試料の三次元内部構造を非破壊・高分解能にて観察することが可能であり、撮像の拡大プロセスではサンプルステージと X 線カメラが同時に移動する最新の設計アーキテクチャが採用されたシステムである。従来の X 線 CT と比較して、数倍の速さでスキャンを実行でき、最高空間分解能は $1\ \mu\text{m}$ 以下である。データの再構成は、標準装備の NRecon ソフトウェアか、高速再構成ソフトウェアの Instarecon により短時間で行うことができる。



【医学地区】

1. 核磁気共鳴分光装置 (NMR)

外部静磁場に置かれた原子核が固有の周波数の電磁波と相互作用する現象（核磁気共鳴）を用い物質を分析する装置。溶液状態で測定が出来、原子レベルの分解能を持つ。医学地区には 2 台の NMR が設置されている。

AVANCE III 800 は、主にタンパク質をはじめとする生体高分子の立体構造解析・運動性の解析、相互作用部位の同定等に使用可能である。クライオプローブによる測定感度の飛躍的な向上により、測定にかかる時間を飛躍的に短縮され、16 倍のサンプルスループットを実現している。磁場強度は 18.8 T（水素の共鳴周波数 800 MHz）で、 ^1H 、 ^{13}C 、 ^{15}N 、 ^2H 核を照射し、 ^1H で高感度の測定を行う多重共鳴測定が可能である。R4 年度から停止中。



AVANCE III 600 は、主にタンパク質をはじめとする生体高分子の立体構造解析・運動性の解析、相互作用部位の同定等に使用可能である。クライオプローブによる測定感度の飛躍的に向上している。磁場強度は 14.0 T（水素の共鳴周波数 600 MHz）で、 ^1H 、 ^{13}C 、 ^{15}N 、 ^{31}P 、 ^2H 核を照射し、 ^1H で高感度の測定を行う多重共鳴測定が可能である。



2. X線回折 (XRD)

原子が規則的に並ぶ結晶に X 線を入射させると、散乱された X 線の光路差が波長の整数倍のとき、電磁波の位相が一致して振幅が大きくなり、強い X 線が特定の方向で観察できる。これを X 線回折 (X-ray diffraction, XRD) という。XRD は X 線が結晶格子で回折する現象のことであり、物質はそれぞれに特有な規則性を持つ結晶をつくることから、X 線回折では物質の結晶構造や化合物の種類を分析することができる。

FR-E SuperBright は、物質の結晶構造や化合物の種類を分析する装置であり、回転対陰極式 Cu K α 線光源 (波長 1.54 Å) を有し、イメージングプレートによるデジタルデータ取得が可能である。高輝度光源と高感度検出器の組み合わせにより、実験室内機でありながら ~0.5 mm 角サイズのタンパク質結晶に対して 1.8 Å 程度以上の高分解能スポットを取得できる。冷却窒素ガス噴き付け機構により、データ取得中の試料冷却が可能である。タンパク質結晶に最適化されたデータ半自動取得ソフトを搭載している。



3. 電子スピン共鳴装置 (ESR)

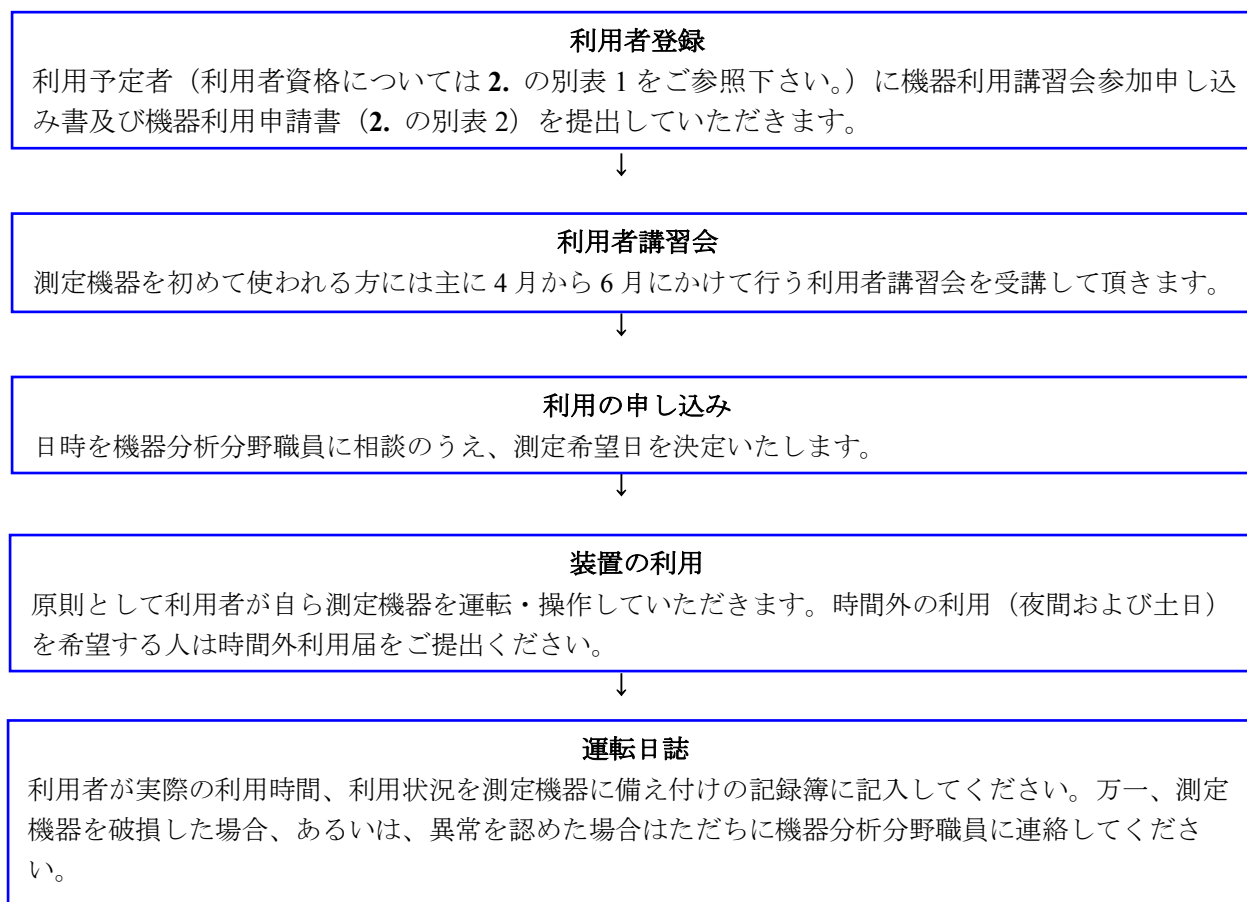
磁場の影響下に置かれた試料中の不対電子は、ある特定のエネルギーを持つ (周波数の) マイクロ波を吸収し、高いエネルギー準位へと遷移する。この現象を利用することで不対電子の検出を行うのが電子スピン共鳴である。ESR は選択的にフリーラジカルを測定できる唯一の手段である。

EMXmicro は、試料の形状 (液体、気体、固体) に影響されず、非破壊的に、遷移金属イオンもしくは有機化合物中のフリーラジカルを検出することができる。



3 利用の手引き

1. 機器分析分野利用の手順



- ◇ それぞれの申込み用紙は機器分析分野のホームページに掲載してあります。
- ◇ 各機器の使用の際は、装置に備え付けの簡易マニュアルをご参照下さい。
- ◇ 各機器の使用後、機器の状態について気が付いたことがありましたら、機器ノートに記載してください。

◇ 問い合わせ

- 機器分析分野の利用手順に関する質問 → 機器分析分野専任教員および職員にご相談下さい。
- 機器分析分野の機器に関する質問（全般） → 機器分析分野専任教員および職員にご相談下さい。なお、利用者が機器分析分野のどの機器を利用してどのような研究を行っているかについては巻末の利用者研究論文一覧をご参照ください。
- 機器分析分野の機器の細かい測定のノウハウ・使用手順等 → 機器分析分野専任教員、職員および協力員が相談に応じます。
- 機器分析分野の運営に関するご意見・ご質問等 → 機器分析分野専任教員、職員あるいは各部局の運営委員にご連絡下さい。

2. 計測機器の利用に関する申し合わせ

機器分析分野

(趣旨)

第1条 岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター機器分析分野（以下「機器分析」という。）に設置され、別表1に定められた計測機器（附属品を含む。以下「計測機器」という。）の利用については、この申し合わせの定めるところによるものとする。

(管理)

第2条 計測機器とその測定室及び測定準備室の管理は、分野長の命により機器分析職員及び計測機器毎に定められた協力員が行う。

(利用者の資格)

第3条 計測機器を利用できる者は、別表1に掲げた利用者の資格に該当する者とする。ただし、機器分析が行う講習会を受講した者に限る。

(利用の申請)

第4条 計測機器を利用しようとする者は機器利用講習会参加申し込み及び機器利用申請書（別表2）を分野長に提出しなければならない。

(利用の承認)

第5条 分野長は、前条の申請が適当であると認めたときには、これを承認するものとする。

(変更の届出)

第6条 前条の承認を得た者は、機器利用講習会参加申し込み及び機器利用申請書の記載事項に変更が生じたときは、速やかにその旨を分野長に届け出なければならない。

(利用手続)

第7条 利用に先立って、利用者は、あらかじめ利用日時を機器分析職員に相談のうえ、測定申込簿に記入し予約しなければならない。

2 前項の予約を変更、若しくは中止する場合は遅滞なく機器分析職員に届け出なければならない。

3 利用者は、測定終了後、直ちに所定の記録簿に利用の項目を記入し、室内の清掃後機器分析職員に連絡しなければならない。

(注意義務)

第8条 利用者は、計測機器の正常運用が維持されるよう万全の注意を払い、かつ測定に関する所定の操作法を厳守しなければならない。万一、異常を認めたときは、直ちに機器分析職員又は協力員に連絡しなければならない。

(経費の負担)

第9条 測定経費は別表3に定める計測機器の測定料金によるものとする。なお予約時間をもって使用時間とし、超過した場合は超過時間を加算するものとする。

- 2 利用者が、故意又は過失により、装置及び測定室等に障害・破損等を引き起こした場合は、現状に復する費用を負担しなければならない。

(利用時間)

第10条 計測機器の利用時間は原則として機器分析の休業日以外の別表1に定める時間とする。ただし、必要と認められる場合はこの限りではない。

- 2 利用者が、午後5時から翌朝午前9時までの間に利用を希望する場合は、利用当日の午後4時までに必ず機器分析職員に時間外利用届(別表3)を提出しなければならない。

(利用の取消等)

第11条 利用者が、この申し合わせに違反し、又は測定機器の正常運用の維持に重大な支障を生じさせた場合、又はそのおそれのある場合は、分野長は利用の承認を取消し、又は一定期間の利用を停止することができる。

(雑則)

第12条 この申し合わせの実施に関し、必要な事項は分野長が定める。

附 則

この申し合わせは、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成20年5月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成22年11月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成30年4月1日から施行する。

別表1 利用者資格

【柳戸地区】

計測機器名 (略称)	利用者の資格 (注 1, 2, 3, 4)		利用時間および貸出し (注 5, 6)
透過型電子顕微鏡 (TEM)	JEM-2100 (STEM 可, EDX 付)	職員 研究室に所属している学生 (資格を有する教員または大学院生 (教育学部および地域科学部の場合、学部生) の立ち会いのもとで3ヶ月以上使用した者)	月曜日～金曜日 9:00～16:30 金曜日の17:00から月曜日の9:00迄は原則として利用できない。
	H-7000		
走査型電子顕微鏡 (SEM)	S-4300 (EDX 付) S-4800 (EDX 付)	職員 研究室に所属している学生 (資格を有する教員または大学院生 (教育学部および地域科学部の場合、学部生) の立ち会いのもとで3ヶ月以上使用した者)	月曜日～金曜日 9:00～17:00
	SEM-3000N (N-SEM)	職員 研究室に所属している学生	
電子顕微鏡関連 小型機器	真空蒸着装置、ガラスナイフ作製器、超マイクローム、テンプレートのライナー、イオンスパッタ、カーボンコーター、イオンミリング装置、精密イオンポリッシング装置、超音波ディスクカッター、ダイヤモンドワイヤソー、小型スパッタコーター、プラズマクリーニング・カーボンコーター CT-UVBox	職員 研究室に所属している学生	月曜日～金曜日 9:00～17:00
	ネオスリムコーター	職員 研究室に所属している学生 (資格を有する教員または大学院生 (教育学部および地域科学部の場合、学部生) の立ち会いのもとで3ヶ月以上使用した者)	
デジタルマイクロ スコープ	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00

走査型プローブ顕微鏡システム (SPM)	AFM5400L AFM5300E	職員 研究室に所属している学部生以上	月曜日～金曜日 9:00～17:00
X線光電子分析装置 (XPS)	職員 研究室に所属している学生（資格を有する教員または大学院生（教育学部および地域科学部の場合、学部生）の立ち会いのもとで3ヶ月以上使用した者）		月曜日～金曜日 9:00～17:00
高分解能質量分析装置 (MS)	GCmate II JMS-700 K9 AccuTOF AXIMA	職員、 資格を有する教員が認めた大学院の学生および学部生	月曜日～金曜日 9:00～17:00
液体クロマトグラフ (HPLC)	Agilent1100 nanoLC EXTREMA		月曜日～金曜日 9:00～20:00
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR)	JNM-ECA500 JNM-ECX400P JNM-ECZ600R/M1	職員、 研究室に所属している学部生以上	月曜日～金曜日 9:00～20:00
	JNM-ECA500 NM-93030CPM(固体)	職員、 大学院の学生	
電子スピン共鳴装置 (ESR)	職員 研究室に所属している学部生以上		
誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES) マイクロ波分析前処理装置 (MARS6)	職員、研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
波長分散型蛍光X線分析装置 (XRF)			
有機微量元素分析装置 (OEA)	職員、大学院の学生 研究室に所属している学部生は、指導教員が特に許可した者		
超高速現象解析システム	超高速撮影装置 (UHC)	職員、大学院の学生および本学職員立ち会いのもと、研究室に所属している学部生	月曜日～金曜日 9:00～17:00 貸出し：1日および1週間単位で最大2週間まで延長可 旧装置貸出し： 最長2ヶ月(4月～9月) 最長1ヶ月(10月～3月)
	汎用高速撮影装置 (HV)		月曜日～金曜日 9:00～17:00 貸出し：1日および1週間単位で最大2週間まで延長可 原則としてPG単独の貸出しは行わない
	パルスジェネレータ (PG)		

超高速現象解析システム	赤外線カメラ (TC)	職員、大学院の学生および本学職員立ち会いのもと、研究室に所属している学部生	月曜日～金曜日 9:00～17:00 貸出し：1日および1週間単位で最大2週間まで延長可 旧装置貸出し： 最長2ヶ月(4月～9月) 最長1ヶ月(10月～3月)
紫外可視分光光度計 (UV-Vis)	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR)	透過型	職員 研究室に所属している学部生以上	月曜日～金曜日 9:00～17:00
	顕微・反射型		
	In Situ プローブ式		
	顕微・接触型		
旋光計	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
円二色性分散計 (CD)	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
蛍光分光光度計	蛍光寿命測定装置 (Tau)	職員 研究室に所属している学部生以上	月曜日～金曜日 9:00～17:00
	絶対 PL 量子収率測定装置 (QY)		
	分光蛍光光度 (FL)		
フェムト秒ファイバーレーザー	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00 貸出し：1日および1週間単位で最大2週間まで延長可
テラヘルツ分光走査型顕微鏡	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
顕微レーザーラマン分光システム	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
熱分析システム (DSC, TMA, TG/DTA, TG/DSC)	職員、大学院の学生 研究室に所属している学部生は、指導教員が特に許可した者		月曜日～金曜日 9:00～17:00
粒子・粘弾性解析システム	フロー式粒子像分析装置	職員 研究室に所属している学部生以上	月曜日～金曜日 9:00～17:00
	粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置		
	レオメーター		
	動的粘弾性測定装置		

X線マイクロCTスキャン	職員 博士課程(工学部に於いては博士後期課程)の学生 修士(博士課程前期)課程は指導教員が任命した研究室代表者) 研究室に所属している学生(3ヶ月以上使用した者で、資格を有する教員が認めたもの)	月曜日～金曜日 9:00～17:00
--------------	--	-----------------------

注1: 利用者は、分野長が特に適当と認めた者を利用可能とする。

注2: いずれも大学院の学生には、6年課程の学部および学科に所属する5、6年生を含む。

注3: 本大学とセンターの利用に関して取り決めを行っている大学等の機関の教員および学生についても、本学の利用資格に準ずる

注4: 資格者とは、3か月以上の使用経験を持ち、教員から単独使用を認められたものとする。

注5: 17:00以降の利用希望者は「時間外利用届」を16:00迄に提出下さい。

注6: 貸出しに際しては本学職員の立ち会いのもとに行うこと。2週間を越えてさらに貸出し利用を希望する場合は改めて申請すること。

【医学地区】

計測機器名 (略称)	利用者の資格 (注1, 2, 3)		利用時間 (注4)
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR)	AVANCE III 600 AVANCE III 800	本学職員、センター教員および指導教員が許可した大学院生	月曜日～金曜日 9:00～20:00
電子スピン共鳴装置 (ESR)	職員 研究室に所属している学部生以上		月曜日～金曜日 9:00～17:00
超高輝度 X線回折装置 (XRD)	本学の職員 博士課程(工学部に於いては博士後期課程)の学生修士 (博士課程前期)課程は指導教員が任命した研究室代表者) 利用する前に、放射線作業従事者の講習会を受講すること		月曜日～金曜日 9:00～17:00

注1: 利用者は、分野長が特に適当と認めた者を利用可能とする。

注2: いずれも大学院の学生には、6年課程の学部および学科に所属する5、6年生を含む。

注3: 本大学とセンターの利用に関して取り決めを行っている大学等の機関の教員および学生についても、本学の利用資格に準ずる。

注4: 17:00以降の利用希望者は「時間外利用届」を16:00迄に提出下さい。

別表 3.

高等研究院 科学研究基盤センター 機器分析分野 (柳戸地区) 時間外利用届

指導教員名		印 または サイン			
在 室 者	学部				
	学科				
	講座				
	内線		身分 (学年)	氏名	
使用する機器の番号に○をつけてください。	1. 質量分析装置 (JMS-700, JMS-K9, GCmate II, AccuTOF, 液クロ, AXIMA, NanoLC, HPLC)				
	2. フーリエ変換超伝導核磁気共鳴装置 (FT-NMR 400・500・600MHz)				
	3. 顕微レーザーラマン分光システム				
	4. 有機微量元素分析装置				
	5. 紫外可視分光光度計 (UV)				
6. 赤外分光光度計 (パーキン, 日本分光)					
7. 円二色性分散計 (CD)					
8. 熱分析システム (DSC, TG/DTA, TMA)					
9. 粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置					
10. フロー式粒子像分析装置					
11. 旋光計					
12. レオメーター・動的粘弾性測定装置					
13. PL 量子収率・蛍光寿命測定装置					
14. 分光蛍光光度計					
15. 精密天秤					
16. 【コアファシリティ機器共用連携室】 Biacore					
17. 透過型電子顕微鏡 (TEM 日本電子)					
18. 電子顕微鏡 (SEM4800, SEM4300, SEM3000)					
19. 蒸着装置・イオンスパッター・ディンプルグラインダー・イオンミリング装置・精密イオンポリッシング・ネオオスミウムコーター・イオンコーター・カーボンコーター・ダイヤモンドワイヤーソー					
20. 走査型プローブ顕微鏡 (SPM)					
21. ミクロトーム・メッサー					
22. デジタルマイクロスコープ					
23. 電子スピン共鳴装置 (ESR)					
24. X線光電子分析装置 (Quanter)					
25. 誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES)					
26. マイクロ波分析前処理装置 (MARS6)					
27. X線マイクロ CT スキャン					
28. 蛍光 X線分析装置 (XRF)					
29. 【コアファシリティ機器共用連携室】 粉末 X線回折装置 (Smart-Lab)					
利用日時	月	日 ()	時	分	～ 月 日 () 時 分
ver. 1.2					

高等研究院 科学研究基盤センター 機器分析分野（医学地区）時間外利用届

指導教員名		印 または サイン				
在 室 者	学部					
	学科					
	講座					
	内線		身分（学年）		氏名	
使用する機器の番号に○をつけてください。	1. フーリエ変換超伝導核磁気共鳴装置（FT-NMR 600 MHz） 2. 電子スピン共鳴装置（ESR）					
	3. 超高輝度 X 線回折装置					
利用日時	月 日（ ） 時 分～ 月 日（ ） 時 分					
ver. 1.2						

3. 受託試験について

岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター機器分析分野 受託試験，測定及び検査等取扱要項

(趣旨)

第1条 岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター（以下「センター」という。）において，東海国立大学機構受託研究規程第24条第4項に基づき行う定型的な試験，測定及び検査等の受託研究（以下「試験等」という。）の取扱いについては，この要項の定めるところによる。

(申込みの方法)

第2条 試験等の申込みは，別紙様式第1号により行うものとする。

(受入条件)

第3条 試験等の受入れの条件は，次の各号に掲げるものとする。

- 一 第6条に定める試験等の料金は原則として前納するものとする。ただし高等研究院科学研究基盤センター長（以下「センター長」という。）が特別の事由があると認めた場合には後納とすることができる。
- 二 委託者からの申し出により試験等を中止した場合においても料金は返還しない。ただし，特別の事情がある場合には，その全部または一部を返還することがある。
次に掲げる場合には，委託者の受ける損害に対してセンターはその責任を負わない。
 - イ やむを得ない事由によって試験等を中止したため損害が生じたとき。
 - ロ 試験等を行うために提出された材料等（以下「材料等」という。）に損害が生じたとき。
 - ハ 第六号の場合において，センターの機器等を使用する者の責による事由によって損害が生じたとき。
- 三 試験等の実施上センター長が必要と認めたときは，材料等の再提出を求めることができる。
- 四 材料等の搬入及び搬出は，すべて委託者が行うものとする。
- 五 センター長が受入れできないと判断した材料等に係る試験等については，受入れをしないことができる。
- 六 委託者が学内担当者の指導・立会の下で直接センターの機器等を使用する場合は，別紙様式第2号の使用申請書を提出し，同書の確認事項を遵守し試験等を行うこととする。ただし，使用者は，センターが行う機器分析の使用に関する講習会を受講した者に限る。

(受入れ及び結果の通知)

第4条 試験等の受入れ及びその結果の通知は，センター長の定める手続を経て行うものとする。

(秘密の保持等)

第5条 センター及び委託者は，試験等の実施で知り得た相手方の秘密，知的財産等を相手方の書面による同意なしに公開してはならない。

2 測定で得られたデータを委託者が公表する場合，原則として岐阜大学名を使用することはできない。また，岐阜大学を特定できる表現も同様とする。ただし，センター長が大学名の使用を許可した場合にはこの限りではない。

(試験等の料金)

第6条 試験等の料金は，別表のとおりとする。ただし，研究教育上センター長が必要と認めた試験等のための材料等の提供を要請した場合には料金を収納しないことができる。

2 試験等の料金は，東海国立大学機構が発行する請求書により収納する。

附 則

この要項は，平成16年4月1日から実施する。

附 則

この要項は，平成20年4月1日から実施する。

附 則

この要項は，平成20年11月26日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年11月24日から実施する。

附 則

この要項は、平成23年7月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成26年4月28日から実施する。

附 則

この要項は、平成27年1月23日から実施する。

附 則

この要項は、平成27年7月22日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年5月9日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和2年7月8日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和3年5月12日から実施する。

別表 試験等の基本利用料金（注1,2）

【柳戸地区】

機 器 名	数 量	料 金（円）
電子顕微鏡		
透過型電子顕微鏡（TEM）	1 検体	42,000
走査型電子顕微鏡（SEM）	基本測定 1 件	20,000
	その他特殊測定	応相談
デジタルマイクロスコープ	基本測定 1 件	21,000
走査型プローブ顕微鏡（SPM）	基本測定 1 検体	10,000
	その他特殊測定	応相談
走査型 X 線光電子分光分析装置 Quanterra-SXM （ワイドスキャンを含む, 4 元素まで）		40,000
	その他の特殊測定	応相談
質量分析装置		
低分解能測定	1 検体	21,000
高分解能測定	1 検体	30,000
質量分析装置用液体クロマトグラフ	24 時間ごと	30,000
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置		
H-NMR	1 検体	22,000
C-NMR	1 検体	30,000
2D NMR（COSY）	1 検体	43,000
その他特殊測定		応相談
電子スピン共鳴装置（ESR）	基本測定 1 検体	10,000
	その他特殊測定	応相談
誘導結合プラズマ発光分析装置（ICP）	1 検体(5 元素まで)	20,000
	1 元素追加ごと	4,000
蛍光 X 線分析装置（XRF）	1 検体	21,000
有機微量元素分析装置（OEA）	1 検体	21,000
超高速現象解析システム	1 検体	31,000
紫外可視分光光度計	基本測定 1 件	21,000
フーリエ変換赤外分光光度計 透過型分光計	基本測定 1 件	21,000
顕微・反射型分光計	基本測定 1 件	21,000
プローブ式分光計	24 時間ごと	33,000
旋光度計	基本測定 1 件	19,000
円二色性分散計	基本測定 1 件	21,000
蛍光寿命測定装置（Tau）	基本測定 1 件	21,000
絶対 PL 量子収率測定装置（QY）	基本測定 1 件	21,000
分光蛍光光度計	基本測定 1 件	21,000
顕微レーザーラマン分光計	基本測定 1 件	21,000
熱分析装置	1 検体	21,000
フロー式粒子像分析装置	基本測定 1 件	20,000

粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置	基本測定 1 件	20,000
レオメーター	基本測定 1 件	14,000
動的粘弾性測定装置	基本測定 1 件	14,000
X線マイクロCT スキャン	1 検体	41,000

【医学地区】

機 器 名	数 量	料 金 (円)
核磁気共鳴装置 (AVANCE III 600 型)		
H- NMR	1 検体	32,000
C-NMR/2D NMR	1 検体	46,000
3D NMR	1 検体	135,000
電子スピン共鳴装置 (ESR)	基本測定 1 検体	10,000
	その他特殊測定	応相談

(注 1) 消費税は料金には含まれておらず，別途請求する。

(注 2) 前処理・消耗品等が必要な場合については，別途相談の上，確定する。

試験等の基本利用料 (税込表示,2021年5月12日時点)

柳戸地区		
機器名	数量	料金(円)
電子顕微鏡		
透過型電子顕微鏡 (TEM)	1検体	46,200
走査型電子顕微鏡 (SEM)	基本測定1件	22,000
	その他特殊測定	応相談
デジタルマイクロスコープ	基本測定1件	23,100
走査型プローブ顕微鏡 (SPM)	基本測定1検体	11,000
	その他特殊測定	応相談
走査型X線光電子分光分析装置(Quanterra)-GS (ワイドスキャンを含む,4元素まで)		44,000
	その他の特殊測定	応相談
質量分析装置		
低分解能測定	1検体	23,100
高分解能測定	1検体	33,000
質量分析装置用液体クロマトグラフ	24時間ごと	33,000
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置		
¹ H-NMR	1検体	24,200
¹³ C-NMR	1検体	33,000
2D NMR (COSY)	1検体	47,300
その他特殊測定		応相談
電子スピン共鳴装置 (ESR)	基本測定1検体	11,000
	その他特殊測定	応相談
誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP)	1検体(5元素まで)	22,000
	1元素追加ごと	4,400
蛍光X線分析装置 (XRF)	1検体	23,100
有機微量元素分析装置 (OEA)	1検体	23,100
超高速現象解析システム	1検体	34,100
紫外可視分光光度計	基本測定1件	23,100

フーリエ変換赤外分光光度計	透過型分光計	基本測定1件	23,100
	顕微反射型分光計	基本測定1件	23,100
	プローブ式分光計	24時間ごと	36,300
旋光度計		基本測定1件	20,900
円二色性分散計		基本測定1件	23,100
蛍光寿命測定装置 (Tau)		基本測定1件	23,100
絶対PL量子収率測定装置 (QY)		基本測定1件	23,100
分光蛍光光度計		基本測定1件	23,100
顕微レーザーラマン分光計		基本測定1件	23,100
熱分析装置		1検体	23,100
フロー式粒子像解析装置		基本測定1件	22,000
粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置		基本測定1件	22,000
レオメーター		基本測定1件	15,400
動的粘弾性測定装置		基本測定1件	15,400
X線マイクロCTスキャン		1検体	45,100

医学地区		
機器名	数量	料金(円)
核磁気共鳴装置 AVANCI III 800型)		
¹ H-NMR	1検体	58,300
¹³ C-NMR/2D NMR	1検体	84,700
3D NMR	1検体	224,400
核磁気共鳴装置 AVANCI III 600型)		
¹ H-NMR	1検体	35,200
¹³ C-NMR/2D NMR	1検体	50,600
3D NMR	1検体	148,500
電子スピン共鳴装置 (ESR)	基本測定1検体	11,000
	その他特殊測定	応相談

(注) 前処理等が必要な場合については、別途相談の上、確定する。

注意事項

- 担当教職員と試験内容、実施日等の打合せを行います。その時に試験サンプルや試験に関する資料がございましたら、一緒にお持ちください。
- 受託試験は、取扱要項のご記入が必要です。●分析機器等を使用の場合は、使用申請書の事項を遵守し試験等を行うこととします。
- 得られたデータを基に担当の教職員と内容について協議し、データをお持ち帰りください。●サンプル等、やむをえない事情によりお断りする場合はご容赦ください。●学内利用優先のため、論文時期など繁忙期は、お断りすることもございます。

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 高等研究院 科学研究基盤センター 機器分析分野

機器分析分野は、構造科学からナノテクノロジーを支える最先端分析機器を学内外に提供する共同利用施設です。受託試験制度や公開セミナーなど地域に広く貢献する中核的支援拠点としての役割を担っています。

最新機器分析技術情報拠点として
教育・研究支援への展開

- 機器の操作講習会を実施
- 分析技術の普及活動

極微世界からナノテクノロジーを
支える最先端分析機器の提供

- 最先端分析機器の整備
- 先端的研究を支える大型機器の共同利用
- 学長委嘱を受けた協力員による研究サポート

地域に広く貢献する中核的支援拠点

- 受託試験制度(外部依頼分析)
- 大型精密機器高度公開セミナー
- 中学生のための体験教室
- 学内外の共同プロジェクトの推進

主要設備

- 透過型・走査型電子顕微鏡
- X線光電子分析装置
- 高分解マイクロX線CTスキャナ
- 高分解能質量分析装置
- フーリエ変換核磁気共鳴装置
- 電子スピン共鳴装置
- 誘導結合プラズマ発光装置
- 走査型プローブ顕微鏡システム
- 超高速現象解析システム
- 蛍光分光光度計システム
- 紫外可視分光光度計
- フーリエ変換型赤外分光光度計
- 円二色性分散計
- 有機微量元素分析装置
- 顕微レーザーラマン分光システム
- 熱分析システム など

4. 受託試験等の手続き

(1) 受託試験等のご相談

受託試験や分析のご相談がありましたら、メール等にてご連絡ください。機器分析分野の職員が適切な機器担当者をご紹介します。

(2) 打合せ日の決定

担当職員と試験について打合せを行う日程を調整してください。

(3) 試験打合せ

機器分析分野にお越しいただき、担当の職員と試験内容、実施日等の打合せを行ないます。その時に試験サンプルや試験に関する資料がございましたら、一緒にお持ちください。なお、試験の内容や試験サンプルの形状によっては、試験が行えない場合もあります。

(4) 受託試験のお申し込み

受託試験を申し込まれる時は、依頼書にご記入いただき、利用料金をお支払いいただきます。

(5) 試験等の実施

試験等実施日には、試験サンプルをお持ち込みいただき測定に同席してください。

(6) データの受領

同席していただきながら得られたデータを基に担当の教職員と内容について協議し、データをお持ち帰り下さい。

センター長	分野長	機器分析分野	研究組織支援課課長	研究組織支援課課長補佐	糖鎖支援室支援係

※事務担当者確認用

受付番号 号 東海国立大学機構岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター機器分析分野 受託試験等依頼書 令和 年 月 日 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター長 殿 住所又は所在地 企業等名及び代表者名 (連絡先) 担当者 (所属・氏名) 電話番号 FAX 番号 電子メール 東海国立大学機構岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター受託試験、測定及び検査等取扱要項 (以下、「取扱要項」) の内容を熟知の上、次のとおり試験等を依頼します。					
供試物品名及び数量		品名		数量	
依頼事項 (使用する機器名等をご記入下さい。)					
相談希望日	令和 年 月 日	試験等実施希望日	令和 年 月 日		
上記の内容について、取扱要項第3条一項のただし書きによる、取扱を認める。					センター長
試験等料金合計					
料金内訳	① 別表料金表による試験等の料金内訳	【使用機器 (試験等種別) : 数量 (件数) × 単価 = 円】			
	② 相談等により設定した (その他特殊測定等) 料金内訳	【積算等】 円			
試験等担当者					

※注 太線枠内を記入してください。取扱要項の内容を受け入れられない場合、依頼測定は行われません。

センター長	分野長	機器分析分野	研究組織支援課課長	研究組織支援課課長補佐	糖鎖支援室支援係

※事務担当者確認用

東海国立大学機構岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター分析機器等使用申請書

令和 年 月 日

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学
高等研究院科学研究基盤センター長 殿

所属機関（会社）住所
所属機関（会社）名
使用者氏名
所属部署
電話番号

下記の確認条項に同意し、分析機器等の使用について申請します。

- 1 分析機器使用・測定については、申込時に使用者が岐阜大学の担当者と十分な相談をして、「東海国立大学機構岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター受託試験等依頼書」を提出する。
- 2 使用・測定の料金は使用前に納入するものとする。使用・測定を中止した場合においても料金は使用者に返還しない。
- 3 分析装置の故障などで測定できなくなった場合には、測定を延期することがあるが、それに関わる損害を使用者は請求できない。
- 4 センター長及び担当者は、使用者が機器を取り扱うのに十分な資質を有していないと判断したときには、いかなる時点においても作業を制止できる。また、毒物や法律等に触れるもの、さらに、機器を破損する恐れのあるものなどセンター長及び担当者が受入れできないと判断したものについては、測定を拒否する。
- 5 使用・測定については、使用者は単独とするのではなく、東海国立大学機構岐阜大学の担当者が同席して、担当者の指導・立会いの下で使用者が作業する。使用者の責任で機器を棄損または滅失したときには、使用者がこれを原形に復し、また損害を賠償する。
- 6 使用者は、機器の利用に当たって、関係法律を守り、安全衛生対策、事故防止に十分注意を払うものとする。また、使用者は、指定された場所以外に許可なく出入りすることはできない。
- 7 前記6の項目に反して、使用者の過失により本人が怪我または病気をした場合は、東海国立大学機構岐阜大学は一切責任を負わないものとする。
- 8 使用者は、承認された時間内に清掃を含めてすべての作業を終了する。
- 9 測定で得られたデータは、東海国立大学機構岐阜大学が保障するものではない。そのため、データの外部への公表において、いかなる場合においても東海国立大学機構岐阜大学名を使うことはできない。また、その際に東海国立大学機構岐阜大学を特定できる表現も使えない。ただし、センター長が大学名の使用を許可した場合にはこの限りではない。
- 10 前記9の項目に反して、外部に公表したことで東海国立大学機構岐阜大学が受けた被害及び損害については、使用者及びその会社が賠償するものとする。

4 活動報告

1. 2023 年度機器の利用状況

表 4-1-1. 【柳戸地区】登録人数、延利用人数、延検体数、延使用時間

1-1 大型電子顕微鏡（透過型 JEM-2100 日本電子製）

納入年月日 平成 22 年 2 月 26 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	4	0	1	91	2	2	0	8	1	27	0	136
延利用人数(人)	0	0	0	93	0	0	1	5	0	1	0	100
延検体数(件)	0	0	0	212	0	0	1	11	0	1	0	225
延使用時間(H)	0	0	0	403.5	0	0	3	14	0	2	0	422.5

1-2 走査型電子顕微鏡（S-4300 型 日立ハイテクノロジーズ製）

納入年月日 平成 15 年 3 月 5 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	4	0	12	253	34	1	0	6	5	14	1	330
延利用人数(人)	1	0	0	503	32	0	2	5	2	0	0	545
延検体数(件)	20	0	0	1528	90	0	2	9	2	0	0	1651
延使用時間(H)	3.5	0	0	1594.5	75	0	3.5	10	9.5	0	0	1696

1-3 走査型電子顕微鏡（S-4800 型 日立ハイテクノロジーズ製）

納入年月日 平成 20 年 3 月 27 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	1	0	40	278	30	1	0	6	5	18	1	380
延利用人数(人)	2	0	190	564	30	3	1	18	20	2	0	830
延検体数(件)	14	0	354	1830	115	3	1	52	93	7	0	2469
延使用時間(H)	16	0	552	1952	75	20	3.5	35	37	5.5	0	2696

1-4 走査型電子顕微鏡（S-3000N 型 日立ハイテクノロジーズ製）

納入年月日 平成 16 年 3 月 2 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	1	0	6	140	15	0	0	6	0	0	0	168
延利用人数(人)	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	8
延検体数(件)	0	0	0	13	12	0	0	0	0	0	0	25
延使用時間(H)	0	0	0	11.5	11	0	0	0	0	0	0	22.5

1-5 デジタルマイクロスコープ（DVM5000 ライカ製）

納入年月日 平成 22 年 11 月 10 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	2	0	0	87	6	0	0	0	3	0	0	98
延利用人数(人)	0	0	0	55	11	0	0	0	0	0	0	66
延検体数(件)	0	0	0	155	25	0	0	0	0	0	0	180
延使用時間(H)	0	0	0	91	20.5	0	0	0	0	0	0	111.5

2 走査型プローブ顕微鏡システム（AFM-5300E, AFM5400L 日立ハイテックスサイエンス製）

納入年月日 平成 26 年 3 月 27 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	0	0	0	149	8	0	0	0	0	12	0	169
延利用人数(人)	0	0	0	138	91	0	0	0	0	1	0	230
延検体数(件)	0	0	0	459	151	0	0	0	0	1	0	611
延使用時間(H)	0	0	0	665.5	373.5	0	0	0	0	2.5	0	1041.5

3 走査型 X 線光電子分光分析装置 (Quantera SXM-GS アルバック・ファイ製) 納入年月日 平成 19 年 12 月 21 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	195	0	1	0	0	2	18	1	219
延利用人数 (人)	0	0	0	140	0	9	0	0	0	6	0	155
延検体数 (件)	0	0	0	507	0	35	0	0	0	20	0	562
延使用時間 (H)	0	0	0	3620	0	99.5	0	0	0	93	0	3812.5

4-1 高分解能質量分析装置 (JMS-700 日本電子製) 納入年月日 平成 16 年 1 月 19 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	3	0	0	50	14	0	9	0	0	0	0	76
延利用人数 (人)	42	0	0	14	0	0	7	0	0	0	0	63
延検体数 (件)	269	0	0	66	0	0	28	0	0	0	0	363
延使用時間 (H)	31.5	0	0	17	0	0	8	0	0	0	0	56.5

4-2 四重極型質量分析装置 (JMS-AMSUN200/GI K9 日本電子製) 納入年月日 平成 16 年 1 月 19 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	29	15	0	0	0	0	0	0	44
延利用人数 (人)	0	0	0	3	74	0	0	0	0	0	0	77
延検体数 (件)	0	0	0	9	193	0	0	0	0	0	0	202
延使用時間 (H)	0	0	0	24.5	386	0	0	0	0	0	0	410.5

4-3 ガスクロマトグラフ質量分析システム (GCmate II 日本電子製) 管理換年月日 平成 16 年 3 月 31 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間 (H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4-4 液体クロマトグラフ (Agilent1100 アジレント社製) 納入年月日 平成 16 年 3 月 22 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	10
延利用人数 (人)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
延検体数 (件)	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11
延使用時間 (H)	0	0	0	0	5.5	0	0	0	0	0	0	5.5

4-5 AccuTOF (LC-PLUS JMS-T100LP 日本電子製) 納入年月日 平成 23 年 6 月 29 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	92	54	0	8	6	1	0	0	161
延利用人数 (人)	0	0	0	105	172	0	0	0	0	0	0	277
延検体数 (件)	0	0	0	376	927	0	0	0	0	0	0	1303
延使用時間 (H)	0	0	0	208	558.5	0	0	0	0	0	0	766.5

4-6 飛行時間型質量分析装置 (AXIMA-Resonance 島津製) 管理換年月日 平成 26 年 9 月 1 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	83	41	0	8	15	0	5	0	152
延利用人数 (人)	0	0	0	80	171	0	3	6	0	5	0	265
延検体数 (件)	0	0	0	311	849	0	5	39	0	25	0	1229
延使用時間 (H)	0	0	0	134	237	0	2	20	0	8	0	401

4-7 nanoLC (LC-20ADnano 島津製)

管理換年月日 平成 26 年 9 月 1 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	5
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間 (H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4-8 液体クロマトグラフ (EXTREMA 日本分光)

納入年月日 令和 4 年 4 月 7 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	12	20	0	8	6	3	0	0	51
延利用人数 (人)	0	0	0	7	75	0	1	15	0	0	0	98
延検体数 (件)	0	0	0	79	904	0	5	139	0	0	0	1127
延使用時間 (H)	0	0	0	194.5	1122	0	8	268	0	0	0	1592.5

5-1 フーリエ変換核磁気共鳴装置 (JNM-ECX400P 型 日本電子製)

納入年月日 平成 19 年 3 月 28 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	3	0	0	145	33	0	8	6	0	0	0	195
延利用人数 (人)	1	0	0	527	343	0	45	0	0	0	0	916
延検体数 (件)	2	0	0	838	606	0	71	0	0	0	0	1517
延使用時間 (H)	0.5	0	0	603.5	422.5	0	28	0	0	0	0	1054.5

5-2 フーリエ変換核磁気共鳴装置 (JNM-ECZ600R 型 日本電子製)

納入年月日 平成 19 年 3 月 28 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	10	0	0	172	37	0	8	6	0	0	0	233
延利用人数 (人)	229	0	0	372	329	0	8	0	0	4	0	942
延検体数 (件)	1183	0	0	701	615	0	10	0	0	14	0	2523
延使用時間 (H)	151.5	0	0	513.5	1038.5	0	9.5	0	0	5.5	0	1718.5

5-3 フーリエ変換核磁気共鳴装置 (JNM-ECA500 型 日本電子製)

管理換年月日 平成 16 年 2 月 27 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	3	0	0	131	37	0	8	6	0	0	0	185
延利用人数 (人)	22	0	0	283	367	0	1	0	0	0	0	673
延検体数 (件)	89	0	0	442	732	0	3	0	0	0	0	1266
延使用時間 (H)	12	0	0	446.5	342.5	0	0.5	0	0	0	0	801.5

5-4 フーリエ変換核磁気共鳴装置 (JNM-ECZ600R 型 固体 日本電子製)

納入年月日 平成 19 年 3 月 28 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	36	4	0	0	0	1	0	0	41
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間 (H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6 電子スピン共鳴装置 (JES-FA100 日本電子製)

管理換年月日 平成16年2月27日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	83	1	0	0	0	0	1	0	85
延利用人数 (人)	0	0	0	36	0	0	0	0	0	1	0	37
延検体数 (件)	0	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	64
延使用時間 (H)	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	41

7 誘導結合プラズマ発光分析装置 (ULTIMA2 堀場製作所製)

納入年月日 平成20年10月15日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	7	0	0	24	29	0	0	6	0	0	0	66
延利用人数 (人)	21	0	0	71	81	0	1	0	0	11	0	185
延検体数 (件)	1250	0	0	444	1539	0	113	0	0	500	0	3846
延使用時間 (H)	205.5	0	0	151.5	627	0	13	0	0	79	0	1076

8-1 波長分散型蛍光 X 線分析装置 (S8 TIGER ブルカーAXS 社製)

納入年月日 平成24年3月30日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	1	0	0	80	6	0	0	0	3	0	0	90
延利用人数 (人)	0	0	0	101	1	0	0	0	0	0	0	102
延検体数 (件)	0	0	0	341	1	0	0	0	0	0	0	342
延使用時間 (H)	0	0	0	227.5	2	0	0	0	0	0	0	229.5

8-2 ビードマシーン (Katanax-K1 ブルカーAXS 社製)

納入年月日 平成24年3月30日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	1	0	0	80	6	0	0	0	3	0	0	90
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間 (H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

8-3 粉砕機 (MC-4A ブルカーAXS 社製)

納入年月日 平成24年3月30日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	1	0	0	80	6	0	0	0	3	0	0	90
延利用人数 (人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
延検体数 (件)	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	52
延使用時間 (H)	0	0	0	168	0	0	0	0	0	0	0	168

9 有機微量元素分析装置 (CHN JM10 ジェイ・サイエンス・ラボ製)

納入年月日 平成23年8月4日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	10	0	0	72	10	0	0	0	0	0	1	93
延利用人数 (人)	2	0	0	23	11	0	0	0	0	0	0	36
延検体数 (件)	67	0	0	224	138	0	0	0	0	0	0	429
延使用時間 (H)	25	0	0	175.5	67	0	0	0	0	0	0	267.5

10 超高速現象解析システム（貸出）

超高速ビデオ撮影装置，高速ビデオ装置，光増幅装置，熱画像解析装置，パルスジェネレータ，レーザー照明装置，PIVシステム

納入年月日 平成11年3月19日

ハイパービジョン，高速ビデオカメラシステム，サーモカメラ

納入年月日 平成23年7月1日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	0	0	6	72	0	0	0	0	5	0	0	83
延利用人数（人）	0	0	3	46	0	0	0	1	0	0	0	50
延検体数（件）	0	0	1010	2630	0	0	0	40	0	0	0	3680
延使用時間（H）	0	0	2424	6312	0	0	0	96	0	0	0	8832

11-1 紫外可視分光光度計（Lambda 950 UV/VIS/NIR パーキンエルマー製）

納入年月日 平成23年4月6日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	0	0	0	150	17	0	8	6	3	0	0	184
延利用人数（人）	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	190
延検体数（件）	0	0	0	743	0	0	0	0	0	0	0	743
延使用時間（H）	0	0	0	256.5	0	0	0	0	0	0	0	256.5

11-2 フーリエ変換赤外分光光度計（Spectrum100 FT-IR パーキンエルマー社製）

納入年月日 平成23年3月22日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	10	0	0	152	11	0	8	0	2	0	0	183
延利用人数（人）	0	0	0	4	14	1	0	0	0	0	0	19
延検体数（件）	0	0	0	6	95	1	0	0	0	0	0	102
延使用時間（H）	0	0	0	5	47	3	0	0	0	0	0	55

11-3 顕微・反射型赤外分光光度計（顕微-IR 460PLUS 日本分光製）

納入年月日 平成15年1月10日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	10	0	0	64	0	0	8	0	0	0	0	82
延利用人数（人）	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	8
延検体数（件）	9	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	19
延使用時間（H）	2	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	17

11-4 In Situ フーリエ変換赤外分光光度計（ReactIR 4100 F-GU センサテクノロジー社製）

納入年月日 平成16年3月24日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延利用人数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間（H）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

11-5 旋光計（P-2300 日本分光製）

納入年月日 平成23年3月1日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数（人）	0	0	0	26	16	0	8	0	0	0	0	50
延利用人数（人）	0	0	0	1	14	0	0	0	0	0	0	15
延検体数（件）	0	0	0	3	47	0	0	0	0	0	0	50
延使用時間（H）	0	0	0	2	36	0	0	0	0	0	0	38

11-6 FT-IR (FT-IR4700 日本分光製)

納入年月日 平成 31 年 10 月 1 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	7	0	0	61	12	2	0	6	2	0	0	90
延利用人数 (人)	54	0	0	103	57	5	0	0	0	0	0	219
延検体数 (件)	326	0	0	436	1291	18	0	0	0	0	0	2071
延使用时间 (H)	65.5	0	0	146.5	172	15	0	0	0	0	0	399

12 円二色性分散計 (CD J-820P 日本分光製)

納入年月日 平成 14 年 3 月 18 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	1	69	51	0	0	6	0	10	0	137
延利用人数 (人)	0	0	0	34	32	0	0	0	0	5	0	71
延検体数 (件)	0	0	0	167	88	0	0	0	0	16	0	271
延使用时间 (H)	0	0	0	86.5	127	0	0	0	0	14.5	0	228

13-1 蛍光寿命測定装置 (Quantaaurus-Tau 浜松ホトニクス製)

納入年月日 平成 23 年 8 月 26 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	60
延利用人数 (人)	0	0	0	21	0	0	0	0	0	2	0	23
延検体数 (件)	0	0	0	58	0	0	0	0	0	4	0	62
延使用时间 (H)	0	0	0	62	0	0	0	0	0	10	0	72

13-2 絶対 PL 量子収率測定装置 (Quantaaurus-QY 浜松ホトニクス製)

納入年月日 平成 23 年 8 月 26 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	60
延利用人数 (人)	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	25
延検体数 (件)	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	67
延使用时间 (H)	0	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	64

13-3 分光蛍光光度計 (FP-8600 日本分光製)

納入年月日 平成 23 年 8 月 2 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	78	6	0	0	6	1	0	0	93
延利用人数 (人)	1	0	0	72	0	0	0	0	8	0	0	81
延検体数 (件)	17	0	0	192	0	0	0	0	118	0	0	327
延使用时间 (H)	5	0	0	123	0	0	0	0	15.5	0	0	143.5

14-1 フェムト秒ファイバーレーザー (BS-60-YS アイシン精機製)

納入年月日 平成 18 年 3 月 3 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用时间 (H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

14-2 テラヘルツ分光走査型顕微鏡 (THz-TDS オザワ科学製)

納入年月日 平成 18 年 3 月 3 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延利用人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数 (件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用时间 (H)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

15 顕微レーザーラマン分光システム (NRS-1000 日本分光製)

納入年月日 平成 15 年 3 月 25 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	116	0	0	0	0	2	0	0	118
延利用人数 (人)	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	14
延検体数 (件)	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	44
延使用时间 (H)	0	0	0	34.5	0	0	0	0	0	0	0	34.5

16 熱分析システム (EXSTAR-6000 エスアイアイ製)

納入年月日 平成 16 年 3 月 19 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	3	0	0	119	15	0	0	0	0	9	7	153
延利用人数 (人)	8	0	0	212	52	0	0	0	0	0	1	273
延検体数 (件)	32	0	0	291	127	0	0	0	0	0	4	454
延使用时间 (H)	53	0	0	1362.5	309	0	0	0	0	0	6.5	1731

17-1 フロー式粒子像分析装置 (FPIA マルバーン社製)

納入年月日 平成 22 年 9 月 30 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	44	9	0	0	0	0	0	0	53
延利用人数 (人)	0	0	0	5	51	0	0	0	0	0	0	56
延検体数 (件)	0	0	0	16	517	0	0	0	0	0	0	533
延使用时间 (H)	0	0	0	18.5	154	0	0	0	0	0	0	172.5

17-2 粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置(Zetasizer Nano ZS マルバーン社製)

納入年月日 平成 22 年 9 月 30 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	0	0	0	108	61	0	0	6	0	21	1	197
延利用人数 (人)	0	0	0	80	18	0	0	1	0	0	1	100
延検体数 (件)	0	0	0	202	91	0	0	8	0	0	0	301
延使用时间 (H)	0	0	0	200	38.5	0	0	3	0	0	0	241.5

18-1 レオメーター (AR-G2KG TA・インスツルメント社製)

納入年月日 平成 23 年 3 月 31 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	71	22	0	0	0	2	10	2	109
延利用人数 (人)	15	0	0	89	116	0	0	0	0	0	0	220
延検体数 (件)	38	0	0	214	414	0	0	0	0	0	0	666
延使用时间 (H)	56	0	0	254.5	373	0	0	0	0	0	0	683.5

18-2 動的粘弾性測定装置 (DMA Q800KG TA・インスツルメント社製)

納入年月日 平成 23 年 3 月 31 日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数 (人)	2	0	0	71	22	0	0	0	2	10	2	109
延利用人数 (人)	3	0	0	9	2	0	0	0	4	0	1	19
延検体数 (件)	34	0	0	9	2	0	0	0	13	0	1	59
延使用时间 (H)	13.5	0	0	42	7	0	0	0	21	0	4.5	88

19 X線マイクロCTスキャン (SKYSCAN1172-GU 東陽テクニカ製)

納入年月日 平成22年11月5日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	0	0	4	74	22	1	0	6	1	0	4	112
延利用人数(人)	0	0	0	44	199	0	0	0	0	18	5	266
延検体数(件)	0	0	0	74	797	0	0	0	0	51	6	928
延使用時間(H)	0	0	0	233.5	931.5	0	0	0	0	140	48	1353

* データ処理のみの利用者も含む

註) 教育：教育学部，地域：地域科学部，医：医学部，工：工学部，応生：応用生物科学部，流域：流域圏科学研究センター，科基セ：科学研究基盤センター，糖鎖コア：糖鎖生命コア研究所，他：連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科・高等研究院(科学研究基盤センター除く)，岐薬：岐阜薬科大学，名大：名古屋大学

表 4-1-2. 【医学地区】登録人数、延利用人数、延検体数、延使用時間

1 フーリエ変換核磁気共鳴装置 (Bruker Biospin AVANCEIII 600 ブルカー製) 管理換年月日 平成23年4月1日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	0	0	5	0	26	0	8	13	1	18	1	72
延利用人数(人)	0	0	2	2	5	0	16	71	1	11	3	111
延検体数(件)	0	0	9	5	8	0	21	195	4	21	27	290
延使用時間(H)	0	0	4	105	40.5	0	704.5	1129	1	127.5	224	2335.5

2 超高輝度X線回折装置 (Rigaku FR-E SuperBright リガク製)

管理換年月日 平成23年4月1日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	0	0	0	34	19	0	0	6	0	0	0	59
延利用人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間(H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 ESR (Bruker Biospin EMXmicro ブルカー製)

管理換年月日 平成23年4月1日

項目	教育	地域	医	工	応生	流域	科基セ	糖鎖コア	他	岐薬	名大	計
登録人数(人)	0	0	5	47	0	0	0	6	0	0	0	58
延利用人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延検体数(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延使用時間(H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

教育：教育学部，地域：地域科学部，医：医学部，工：工学部，応生：応用生物科学部，流域：流域圏科学研究センター，科基セ：科学研究基盤センター，糖鎖コア：糖鎖生命コア研究所，他：連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科・高等研究院(科学研究基盤センター除く)，岐薬：岐阜薬科大学，名大：名古屋大学

2. 活動状況報告

1) 2023 年度機器分析分野協力員会議

- 議題 (1) 昨年度の議事録の確認
 (2) 機器状況の報告
 (3) 講習会について
 (4) 使用料金について
 (5) その他

表 4-2-1. 協力員会議一覧

協力員グループ名*	開催日	出席者数
電子顕微鏡・デジタル顕微鏡・走査型プローブ顕微鏡 (SPM)	5月19日 (金)	17
走査型 X 線光電子分光分析装置	5月12日 (金)	6
高分解能質量分析装置	5月18日 (木)	10
フーリエ変換核磁気共鳴装置	5月15日 (月)	8
電子スピン共鳴装置	5月15日 (月)	5
組成分析装置 (ULTIMA2, S8-TIGER, CHN JM-10)	5月11日 (木)	11
超高速現象解析システム	5月15日 (月)	9
分光小型機器	5月11日 (木)	15
粒子径・粘弾性測定装置	5月11日 (木)	7
X 線分析装置 (Skyscan1172, FR-E Super Bright)	5月19日 (金)	8

註) * 詳しくは表 1 参照

2) 2023 年度国立大学機器・分析センター協議会

期 日：令和 5 年 10 月 20 日 (金)

会 場：とりぎん文化会館 小ホール (オンラインとのハイブリッド開催)

当番校：鳥取大学

出席者：鎌足雄司、二ノ宮真之、リモート参加：冨田芳広

- 1) 基調講演「学術研究政策に係る最近の動向について」文部科学省 山本武史 氏
- 2) 事例報告「沖縄科学技術大学院大学における「チーム共用」」
 沖縄科学技術大学院大学 機器分析セクション 山内一夫 氏
- 3) 技術職員会議報告
- 4) 調査分析部会報告
- 5) 総合討論

3) セミナー

- 2023 年度 第 41 回大型精密機器高度利用公開セミナー
 —最先端の装置で見える世界—

日時：2023年7月28日（金）

参加人数：12名（小中学生）

運営：鎌足、二ノ宮、夢田、神谷、杉山／機器分析分野

工学部高橋研究室、櫻田研究室、応用生物科学部西津研究室のTA

／自然科学技術研究科

○ 2023年度 第42回大型精密機器高度利用公開セミナー

Simpleware 公開セミナー –高機能イメージデータプロセッシングソフトウェア–

日時：2024年2月29日（木）

講師：株式会社JSOL

参加人数：11名

4) 機器分析分野受託試験等依頼実績

走査型電子顕微鏡（3件）

核磁気共鳴装置（1件）

質量分析装置（2件）

蛍光寿命測定装置（6件）

有機微量元素分析装置（78件）

X線マイクロCTスキャン（4件）

計94件

5) センター見学

表 4-2-2. 見学者一覧表

会社・学校名等	見学日	人数
岐阜県石灰応用技術研究会	2023年7月27日	17
岐阜大学工学部物質化学コース（有機機器分析）	2024年1月19日	80
岐阜県立武義高等学校科学部	2024年3月18日	5

6) 機器分析分野機関誌の原稿作成等

科学研究基盤センター年報 第20号

ホームページ <https://www1.gifu-u.ac.jp/~lsrc/dia/index.html>

3. 利用者研究論文一覧

○ 原著論文：

1. Y. Dang, T. Imaizumi, T. Nishizu, R. Anandalakshmi, and N. Katsuno, “Effect of the addition of pregelatinized rice starch paste on the retrogradation of rice starch gel,” *Food Hydrocolloids*, vol. 145, p. 109159, Dec. 2023, doi: 10.1016/j.foodhyd.2023.109159. : (**rheometer**)
2. Y. Hirata, T. Hashimoto, K. Ando, Y. O. Kamatari, H. Takemori, and K. Furuta, “Structural features localizing the ferroptosis inhibitor GIF-2197-r to lysosomes,” *RSC Adv.*, vol. 13, no. 46, pp. 32276–32281, 2023, doi: 10.1039/D3RA06611H. : (**MS**)
3. Y. Kurokawa, K. Yamada, and H. Yuasa, “Inkjet-Printed Flexible Spin Seebeck Thermopile Device for Low-Cost Spintronics Device Fabrication,” *Adv Eng Mater*, vol. 26, no. 2, p. 2301069, Jan. 2024, doi: 10.1002/adem.202301069. : (**SEM**)
4. K. Yamada, M. Kikuchi, A. B. Azizan, Y. Tsuchiya, S. Ono, Y. Nakatani, and M. Shima, “Effects of structure, size and non-magnetic Cu layer thickness on magnetization switching behavior in Ni/Cu/M (M = Ni, Co) cylindrical nanowires,” *Nano-Structures & Nano-Objects*, vol. 35, p. 101012, Jul. 2023, doi: 10.1016/j.nanoso.2023.101012. : (**SEM-EDS**)
5. N. Abdul Kadir Jilani, O. Natsuhisa, A. Kaori, and S. A. Hasbullah, “Synthesis, Characterisation and Binding Evaluation of New 6-Amidinoindole Compound as the Potential Heme Binder,” *JSM*, vol. 52, no. 4, pp. 1231–1242, Apr. 2023, doi: 10.17576/jsm-2023-5204-15. : (**NMR**)
6. F. Hashiya, H. Murase, A. Chandela, H. Hiraoka, M. Inagaki, Y. Nakashima, N. Abe, M. Nakamura, G. Terai, Y. Kimura, K. Ando, N. Oka, K. Asai, and H. Abe, “The Effect of γ Phosphate Modified Deoxynucleotide Substrates on PCR Activity and Fidelity,” *ChemBioChem*, vol. 24, no. 14, p. e202200572, Jul. 2023, doi: 10.1002/cbic.202200572. : (**NMR**)
7. K. Nomura, K. Onda, H. Murase, F. Hashiya, Y. Ono, G. Terai, N. Oka, K. Asai, D. Suzuki, N. Takahashi, H. Hiraoka, M. Inagaki, Y. Kimura, Y. Shimizu, N. Abe, and H. Abe, “Development of PCR primers enabling the design of flexible sticky ends for efficient concatenation of long DNA fragments,” *RSC Chem. Biol.*, vol. 5, no. 4, pp. 360–371, 2024, doi: 10.1039/D3CB00212H. : (**NMR**)
8. M. Mizoguchi, H. Takemori, S. Furukawa, M. Ito, M. Asai, H. Morino, T. Miura, D. Yabe, and T. Shibata, “Increased expression of glucagon-like peptide-1 and cystic fibrosis transmembrane conductance regulator in the ileum and colon in mouse treated with metformin,” *Endocr J*, vol. 70, no. 2, pp. 149–159, 2023, doi: 10.1507/endocrj.EJ22-0260.
9. A. Sarasati, M. H. Syahrudin, A. Nuryanti, I. D. Ana, A. Barlian, C. H. Wijaya, D. Ratnadewi, T. D. K. Wungu, and H. Takemori, “Plant-Derived Exosome-like Nanoparticles for Biomedical Applications and Regenerative Therapy,” *Biomedicines*, vol. 11, no. 4, p. 1053, Mar. 2023, doi: 10.3390/biomedicines11041053.
10. M. Takahashi, A. Hamamoto, K. Oh-hashii, H. Takemori, K. Furuta, and Y. Hirata, “Antiferroptotic Activities of Oxindole GIF-0726-r Derivatives: Involvement of Ferrous Iron Coordination and Free-Radical Scavenging Capacities,” *ACS Chem. Neurosci.*, vol. 14, no. 10, pp. 1826–1833, May 2023, doi: 10.1021/acscchemneuro.3c00042.
11. K. Kawaguchi, M. Watanabe, S. Furukawa, K. Koga, H. Kanamori, M. J. Ikemoto, S. Takashima, M. Maeda, K. Oh-Hashi, Y. Hirata, K. Furuta, and H. Takemori, “Intermittent inhibition of FYVE finger-containing phosphoinositide kinase induces melanosome degradation in B16F10 melanoma cells,” *Mol Biol Rep*, vol. 50, no. 7, pp. 5917–5930, Jul. 2023, doi: 10.1007/s11033-023-08536-9.
12. N. Nurlala, S. T. Wahyudi, A. Ilmiawati, W. Nurcholis, H. Takemori, and I. Batubara, “Chemical profiling and computational identification of potential antibacterials from *Adenostemma* species,” *South African Journal of Botany*, vol. 162, pp. 847–863, Nov. 2023, doi: 10.1016/j.sajb.2023.10.010.
13. K. Manseki, S. Vafaei, L. Scott, K. Hampton, N. Hattori, K. Ohira, K. Prochotsky, S. Jala, and T. Sugiura, “1D Narrow-Bandgap Tin Oxide Materials: Systematic High-Resolution TEM and Raman Analysis,” *Materials*, vol. 16, no. 13, p. 4539, Jun. 2023, doi: 10.3390/ma16134539. : (**SEM, TEM**)
14. N. Hattori, S. Vafaei, R. Narita, N. Nagaya, N. Yoshida, T. Sugiura, and K. Manseki, “Growth and Dispersion Control of SnO₂ Nanocrystals Employing an Amino Acid Ester Hydrochloride in Solution Synthesis: Microstructures and Photovoltaic Applications,” *Materials*, vol. 16, no. 24, p. 7649, Dec. 2023, doi: 10.3390/ma16247649. : (**SEM, TEM**)
15. S. Vafaei, V. K. Boddu, S. Jala, P. K. Bezawada, N. Hattori, S. Higashi, T. Sugiura, and K. Manseki, “Preparation of Nanostructured Sn/Ti Oxide Hybrid Films with Terpeneol/PEG-Based Nanofluids: Perovskite Solar Cell Applications,” *Materials*, vol. 16, no. 8, p. 3136, Apr. 2023, doi: 10.3390/ma16083136. : (**SEM, TEM**)

16. Y. Futamura, F. Sano, H. Yasuda, S. Hino, Y. Sobajima, and N. Yoshida, "Orientation control of two-dimensional perovskite $(\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{NH}_3)_2(\text{CH}_3\text{NH}_3)_{n-1}\text{Pb}_n\text{I}_{3n+1}$ ($n = 2$) thin films by thermal annealing," *Jpn. J. Appl. Phys.*, vol. 62, no. SK, p. SK1007, Aug. 2023, doi: 10.35848/1347-4065/acbd59. : **(SEM)**
17. Y. Kitamura, M. Kandeel, E. Oba, C. Iwai, K. Iritani, N. Nagaya, R. Namura, H. Katagiri, H. Ueda, and Y. Kitade, "A Diversifiable Synthetic Platform for the Discovery of New Carbasugar SGLT2 Inhibitors Using Azide–Alkyne Click Chemistry," *Chem. Pharm. Bull.*, vol. 71, no. 3, pp. 240–249, Mar. 2023, doi: 10.1248/cpb.c22-00841. : **(NMR)**
18. M. Kagawa, N. Katsuta, S. Naito, Y. Masuki, C. Yoshimizu, H. Chiba, and I. Tayasu, "Sample pretreatment effects on isotopic compositions of oxygen and sulfur in BaSO_4 derived from atmospheric sulfate," *Rapid Comm Mass Spectrometry*, vol. 37, no. 24, p. e9659, Dec. 2023, doi: 10.1002/rcm.9659. : **(ICP-AES)**
19. N. Katsuta, A. Umemura, S. Naito, Y. Masuki, Y. Itayama, M. Niwa, S. Sirono, H. Yoshida, and S. Kawakami, "Heterogeneity effects in micro-beam XRF scanning spectroscopy of binary powdered mixtures and lake sediments," *Spectrochimica Acta Part B: Atomic Spectroscopy*, vol. 210, p. 106817, Dec. 2023, doi: 10.1016/j.sab.2023.106817. : **(SEM)**
20. T. Itoh, M. Muramatsu, D. Miyazono, M. Koketsu, S. Fujita, and T. Hashizume, "Phenolic Glycosides Citrulluside H and Citrulluside T Isolated From Young Watermelon (*Citrullus lanatus*) Fruit Have Beneficial Effects Against Cutibacterium acnes -Induced Skin Inflammation," *Natural Product Communications*, vol. 18, no. 1, p. 1934578X2211432, Jan. 2023, doi: 10.1177/1934578X221143202. : **(MS, NMR)**
21. M. Adfa, K. Wiradimafan, R. F. Pratama, A. Sanjaya, D. A. Triawan, S. Yudha S., M. Ninomiya, M. Rafi, and M. Koketsu, "Anti-Termite Activity of *Azadirachta excelsa* Seed Kernel and Its Isolated Compound against *Coptotermes curvignathus*," *J. Korean Wood Sci. Technol.*, vol. 51, no. 3, pp. 157–172, May 2023, doi: 10.5658/WOOD.2023.51.3.157. : **(MS, NMR)**
22. G. L. R. Sianturi, E. W. Trisnawati, M. Koketsu, and V. Suryanti, "Chemical constituents and antioxidant activity of Britton's wild petunia (*Ruellia brittoniana*) flower," *Biodiversitas*, vol. 24, no. 7, Jul. 2023, doi: 10.13057/biodiv/d240703. : **(MS, NMR)**
23. Y. Umezu, E. Horiyama, Y. Nakai, M. Ninomiya, A. Nishina, and M. Koketsu, "Synthesis of raloxifene-like quinoxaline derivatives by intramolecular electrophilic cyclization with disulfides," *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, vol. 93, p. 129415, Sep. 2023, doi: 10.1016/j.bmcl.2023.129415. : **(MS, NMR)**
24. A. Nishina, M. Ukiya, K. Motegi, R. Kiryu, D. Sato, M. Sada, Y. Hori, H. Satsu, K. Uemura, M. Koketsu, M. Ninomiya, L. M. M. Myint, and H. Kimura, "Promotion of ABCG2 gene expression by neolignans from *Piper longum* L," *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, vol. 87, no. 12, pp. 1523–1531, Dec. 2023, doi: 10.1093/bbb/zbad132. : **(MS, NMR)**
25. T. Okselni, A. W. Septama, R. A. Pamungkas, E. P. Rahmi, M. Efdi, and M. Koketsu, "A systematic review and meta-analysis extraction techniques to reach the optimum asiaticoside content from the edible plant of *Centella asiatica*," *South African Journal of Botany*, vol. 155, pp. 261–273, Apr. 2023, doi: 10.1016/j.sajb.2023.02.019. : **(MS, NMR)**
26. A. Isogami, S. L. Higashi, B. Okumura, A. Shibata, K. M. Hirosawa, K. G. N. Suzuki, S. Tsukiji, K. Matsuura, and M. Ikeda, "Hierarchical supramolecular structure comprising reduction-responsive DNA microspheres and semi-artificial glycopeptide-based micro-asters," *Polym J*, vol. 55, no. 10, pp. 1103–1107, Oct. 2023, doi: 10.1038/s41428-023-00809-1. : **(MS, NMR)**
27. K. Suzuki, H. Koyama, N. Nakamura, Y. Kimura, A. Ogata, H. Ikenuma, H. Ishii, M.-R. Zhang, K. Kawamura, T. Minamimoto, Y. Nagai, H. Katsuki, T. Kimura, N. Kimura, M. Ichise, T. Kato, K. Ito, and M. Suzuki, "¹¹C-Labeling of acyclic retinoid peretinoin by rapid C-[¹¹C]methylation to disclose novel brain permeability and central nervous system activities hidden in antitumor agent," *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, vol. 85, p. 129212, Apr. 2023, doi: 10.1016/j.bmcl.2023.129212. : **(MS, NMR)**
28. S. Nakanishi, K. Kinoshita, Y. Kurauchi, T. Seki, Y. Kimura, M. Suzuki, K. Suzuki, H. Koyama, H. Kagechika, and H. Katsuki, "Acyclic retinoid peretinoin reduces hemorrhage-associated brain injury in vitro and in vivo," *European Journal of Pharmacology*, vol. 954, p. 175899, Sep. 2023, doi: 10.1016/j.ejphar.2023.175899. : **(MS, NMR)**
29. T. K. Nomura, S. Endo, T. Kuwano, K. Fukasawa, S. Takashima, T. Todo, K. Furuta, T. Yamamoto, E. Hinoi, H. Koyama, and R. Honda, "ARL-17477 is a dual inhibitor of NOS1 and the autophagic-lysosomal system that prevents tumor growth in vitro and in vivo," *Sci Rep*, vol. 13, no. 1, p. 10757, Jul. 2023, doi: 10.1038/s41598-023-37797-4. : **(MS, NMR)**

30. H. Ikenuma, A. Ogata, H. Koyama, B. Ji, H. Ishii, T. Yamada, J. Abe, C. Seki, Y. Nagai, M. Ichise, T. Minamimoto, M. Higuchi, M.-R. Zhang, T. Kato, K. Ito, M. Suzuki, and Y. Kimura, "Synthesis and evaluation of a novel PET ligand, a GSK'963 analog, aiming at autoradiography and imaging of the receptor interacting protein kinase 1 in the brain," *EJNMMI radiopharm. chem.*, vol. 8, no. 1, p. 31, Oct. 2023, doi: 10.1186/s41181-023-00217-z. : **(MS, NMR)**
31. M. Yoshida, M. Hada, O. Sakurada, and K. Morita, "Transparent tetragonal zirconia prepared by sinter forging at 950 °C," *Journal of the European Ceramic Society*, vol. 43, no. 5, pp. 2051–2056, May 2023, doi: 10.1016/j.jeurceramsoc.2022.12.031. : **(SEM, TEM)**
32. K. E. Tian, D. Aldian, G. Luo, A. Sossou, and M. Yayota, "Condensed tannin-induced variations in the rumen metabolome and the correlation with fermentation characteristics in goats," *Animal Science Journal*, vol. 95, no. 1, p. e13925, Jan. 2024, doi: 10.1111/asj.13925. : **(GC-MS)**
33. K. E. Tian, G. Luo, D. Aldian, and M. Yayota, "Treatment of corn with lactic acid delayed in vitro ruminal degradation without compromising fermentation: a biological and morphological monitoring study," *Front. Vet. Sci.*, vol. 11, p. 1336800, Jan. 2024, doi: 10.3389/fvets.2024.1336800. : **(GC-MS, SEM)**
34. A. Isogami, S. L. Higashi, B. Okumura, A. Shibata, K. M. Hirosawa, K. G. N. Suzuki, S. Tsukiji, K. Matsuura, and M. Ikeda, "Hierarchical supramolecular structure comprising reduction-responsive DNA microspheres and semi-artificial glycopeptide-based micro-asters," *Polym J*, vol. 55, no. 10, pp. 1103–1107, Oct. 2023, doi: 10.1038/s41428-023-00809-1. : **(IR, CHN)**
35. M. Yoshimatsu, H. Goto, R. Saito, K. Iguchi, M. Kikuchi, H. Wasada, and Y. Sawada, "Cationic indium catalysis as a powerful tool for generating α -alkyl propargyl cations for SN1 reactions," *Commun Chem*, vol. 6, no. 1, p. 279, Dec. 2023, doi: 10.1038/s42004-023-01048-4. : **(MS, NMR, IR, CHN)**
36. T. Nakano, N. Kousaka, A. Nakayama, Y. Kato, K. Takashima, G. Tanabe, and M. Yoshimatsu, "Radical Nitrososulfonation of Propargyl Alcohols: Thiazolidine-2,4-dione-Assisted Synthesis of 5-Alykyl-4-sulfonylisoxazoles," *Org. Lett.*, vol. 26, no. 9, pp. 1753–1757, Mar. 2024, doi: 10.1021/acs.orglett.3c03674. : **(MS, NMR, IR, CHN)**
37. Y. Kawase, S. Kutsumzu, T. Udagawa, Y. Miwa, Y. Yamamura, and K. Saito, "Room-temperature Ia 3d phase obtained for the binary mixture containing different sizes of siloxanyl terminals," *Phys. Chem. Chem. Phys.*, vol. 25, no. 29, pp. 19891–19898, 2023, doi: 10.1039/D3CP02200E. : **(NMR, CHN)**
38. U. Takahama, E. Yanase, S. Kokabu, T. Ansai, and S. Hirota, "Slow starch hydrolysis of non-glutinous rice flour and potato starch heated with taxifolin: contribution of proteins to the former and longer amylose to the latter," *International Journal of Food Sciences and Nutrition*, vol. 74, no. 4, pp. 463–475, May 2023, doi: 10.1080/09637486.2023.2220987. : **(NMR)**
39. M. R. U. Z. Khan, E. Yanase, and V. Trivedi, "Extraction, phytochemical characterization and anti-cancer mechanism of Haritaki churna: An ayurvedic formulation," *PLoS ONE*, vol. 18, no. 5, p. e0286274, May 2023, doi: 10.1371/journal.pone.0286274. : **(MS, NMR)**
40. K. Yamauchi, M. Soyano, M. Kobayashi, Y. O. Kamatari, and T. Mitsunaga, "Protein aggregation model to explain the bioactivity of condensed tannins," *Food Chemistry*, vol. 416, p. 135870, Aug. 2023, doi: 10.1016/j.foodchem.2023.135870. : **(MS, NMR)**
41. Y. H. Prayogo, I. Batubara, R. K. Sari, S. Egra, K. Yamauchi, T. Mitsunaga, and W. Syaffi, "Chemical Constituent of Acacia auriculiformis Wood Extractives and Their Antioxidant Activity," *J. Sylva Lestari*, vol. 11, no. 3, pp. 370–381, Aug. 2023, doi: 10.23960/jsl.v11i3.753. : **(NMR)**
42. S. Egra, H. Kuspradini, I. W. Kusuma, I. Batubara, I. Imra, N. Nurjannah, E. Wahyuni, K. Yamauchi, and T. Mitsunaga, "Potential of prospective medicinal plants of Rhizophoraceae from North Kalimantan, Indonesia," *Biodiversitas*, vol. 24, no. 3, Mar. 2023, doi: 10.13057/biodiv/d240303.
43. S. Egra, H. Kuspradini, I. W. Kusuma, I. Batubara, K. Yamauchi, and T. Mitsunaga, "Garcidepsidone B from *Garcinia parvifolia*: antimicrobial activities of the medicinal plants from East and North Kalimantan against dental caries and periodontal disease pathogen," *Med Chem Res*, vol. 32, no. 8, pp. 1658–1665, Aug. 2023, doi: 10.1007/s00044-023-03071-5. : **(MS, NMR)**
44. K. Naito, D. Nagahama, I. Shimabukuro, T. Irisawa, Y. Horiguchi, S. Takahashi, K. Yashiro, and A. Takeno, "Acceleration of Crazing on Polyacrylonitrile Through Solid or Liquid Coating," *JFST*, vol. 79, no. 8, pp. 192–199, 2023, doi: 10.2115/fiberst.2023-0019. : **(SEM)**
45. I. Shimabukuro, K. Yashiro, T. Maeda, T. Irisawa, Y. Horiguchi, and K. Naito, "FABRICATION OF SOLVENT-CAST CARBON NANOTUBE-DISPERSED POLYPROPYLENE SHEET AND ITS TENSILE PROPERTIES," in *SAMPE 2023*, 2023. doi: 10.33599/nasampe/s.23.0061. : **(SEM)**
46. R. Kumar, K. Yamada, F. Ohashi, H. S. Jha, and T. Kume, "Optimization of synthesis condition of type II Ge clathrate film," *Jpn. J. Appl. Phys.*, vol. 62, no. SD, p. SD1020, May 2023, doi: 10.35848/1347-4065/acae2c. : **(SEM-EDS, IR, UV-vis/NIR)**

47. T. N. Aye, Y. Kawaura, R. Kumar, F. Ohashi, H. S. Jha, and T. Kume, "Synthesis and optical properties of Ge clathrate films with and without Al doping," *Jpn. J. Appl. Phys.*, vol. 62, no. SD, p. SD1018, May 2023, doi: 10.35848/1347-4065/acad8. : **(SEM-EDS, UV-vis/NIR)**
48. S. Anggreini, M. Y. Rosadi, T. Yamada, H. Hudori, Z. Deng, and F. Li, "Characteristics of organic matter released from drinking water treatment sludge under different storage conditions: Evaluation based on activated carbon adsorbability," *Chemosphere*, vol. 339, p. 139679, Oct. 2023, doi: 10.1016/j.chemosphere.2023.139679. : **(IR)**
49. M. Yusup Rosadi, S. Maysaroh, N. Diva Sagita, S. Anggreini, R. Desmiarti, Z. Deng, and F. Li, "Fluorescence-based indicators predict the performance of conventional drinking water treatment processes: Evaluation based on the changes in the compositions of dissolved organic matter," *Chemosphere*, vol. 337, p. 139410, Oct. 2023, doi: 10.1016/j.chemosphere.2023.139410. : **(IR)**
50. K. Sarkar, R. Yandi, N. D. Sagita, and F. Li, "Spatiotemporal Variation of Fishy Smell-Causing Algae (*Uroglena americana*) and Its Correlation with Water Quality Factors in the Source Water of Drinking Water Treatment Plant," *Water Air Soil Pollut*, vol. 234, no. 8, p. 507, Aug. 2023, doi: 10.1007/s11270-023-06490-7. : **(IR)**
51. S. Ono, A. Sugiyama, N. Sakamoto, K. Kuwabara, M. Minoura, and T. Murai, "Two-Step Substitution Reaction of Phosphonates Carrying a Binaphthyl Group with Grignard Reagents Leading to the Formation of P-Chirogenic Phosphine Oxides," *Synlett*, vol. 34, no. 12, pp. 1502–1506, Jul. 2023, doi: 10.1055/a-1979-6245. : **(MS, NMR)**
52. T. Murai, N. Tanaka, K. Takekoshi, M. Hoshaku, and M. Minoura, "5-N,N-Diarylaminothiazoles with Electron-Accepting Groups: Synthesis, Photophysical Properties, and Their Application for the Detection of Hydrazine Hydrate," *Eur J Org Chem*, vol. 27, no. 3, p. e202301036, Jan. 2024, doi: 10.1002/ejoc.202301036. : **(MS, NMR)**
53. S. Hamajima, N. Komura, H.-N. Tanaka, A. Imamura, H. Ishida, T. Ichiyanagi, and H. Ando, "Investigation of the Protection of the C4 Hydroxyl Group in Macrobicyclic Kdo Donors," *Molecules*, vol. 28, no. 1, p. 102, Dec. 2022, doi: 10.3390/molecules28010102. : **(NMR)**
54. E. Yamaguchi, N. Komura, H.-N. Tanaka, A. Imamura, H. Ishida, S. Groux-Degroote, M. Mühlenhoff, K. G. N. Suzuki, and H. Ando, "Fluorescent GD2 analog for single-molecule imaging," *Glycoconj J*, vol. 40, no. 2, pp. 247–257, Apr. 2023, doi: 10.1007/s10719-023-10102-1. : **(NMR)**
55. Y. Suganuma, A. Imamura, H. Ando, M. Kiso, H. Takematsu, T. Tsubata, and H. Ishida, "Improved synthesis of CD22-binding sialosides and its application for further development of potent CD22 inhibitors," *Glycoconj J*, vol. 40, no. 2, pp. 225–246, Apr. 2023, doi: 10.1007/s10719-023-10098-8. : **(NMR)**
56. M. Murate, N. Yokoyama, N. Tomishige, L. Richert, N. Humbert, B. Pollet, A. Makino, N. Kono, L. Mauri, J. Aoki, Y. Sako, S. Sonnino, N. Komura, H. Ando, M. K. Kaneko, Y. Kato, K. Inamori, J. Inokuchi, Y. Mély, K. Iwabuchi, and T. Kobayashi, "Cell density-dependent membrane distribution of ganglioside GM3 in melanoma cells," *Cell. Mol. Life Sci.*, vol. 80, no. 6, p. 167, Jun. 2023, doi: 10.1007/s00018-023-04813-9. : **(NMR)**
57. A. Auger, S.-Y. Yu, S.-Y. Guu, A. Quéméner, G. Euler-Nicolas, H. Ando, M. Desdouits, F. S. Le Guyader, K.-H. Khoo, J. Le Pendu, F. Chirat, and Y. Guerardel, "Species-Specific N-Glycomes and Methylation Patterns of Oysters *Crassostrea gigas* and *Ostrea edulis* and Their Possible Consequences for the Norovirus–HBGA Interaction," *Marine Drugs*, vol. 21, no. 6, p. 342, Jun. 2023, doi: 10.3390/md21060342. : **(NMR)**
58. T. Ikazaki, E. Ishikawa, H. Tamashima, H. Akiyama, Y. Kimuro, M. Yoritake, H. Matoba, A. Imamura, H. Ishida, S. Yamasaki, and G. Hirai, "Ligand-Controlled Stereoselective Synthesis and Biological Activity of 2-Exomethylene Pseudo-glycoconjugates: Discovery of Mincle-Selective Ligands," *Angew Chem Int Ed*, vol. 62, no. 22, p. e202302569, May 2023, doi: 10.1002/anie.202302569. : **(NMR)**
59. T. Asano, T. Udagawa, N. Komura, A. Imamura, H. Ishida, H. Ando, and H.-N. Tanaka, "Unprecedented neighboring group participation of C2 N-imidoxy functionalities for 1,2-trans-selective glycosylation," *Carbohydrate Research*, vol. 527, p. 108808, May 2023, doi: 10.1016/j.carres.2023.108808. : **(NMR)**
60. R. Hagino, K. Mozaki, N. Komura, A. Imamura, H. Ishida, H. Ando, and H. Tanaka, "Synthetic Approaches to Ribosyl Adenosine 5',5''-Diphosphate Fragment of Poly(ADP-ribose)," *Eur J Org Chem*, p. e202300875, Oct. 2023, doi: 10.1002/ejoc.202300875. : **(NMR)**
61. H. Takahashi, C. Abo, H. Suzuki, J. Romsuk, T. Oi, A. Yanagawa, T. Gorai, Y. Tomisaki, M. Jitsui, S. Shimamura, H. Mori, A. Kaga, M. Ishimoto, H. Seki, T. Muranaka, and M. Nakazono, "Triterpenoids in aerenchymatous phellem contribute to internal root aeration and waterlogging adaptability in soybeans," *New Phytologist*, vol. 239, no. 3, pp. 936–948, Aug. 2023, doi: 10.1111/nph.18975. : **(Cryo-SEM)**

62. 佐々木啓人, 鈴木史朗, 鈴木聖治, 吉田光毅, アラビノキシランの生合成機構と健康機能性に関する研究動向, *Trends in Glycoscience and Glycobiology*, 35 (207): J63-J67. (**MS, NMR, 蛍光HPLC**)
63. 鈴木史朗,
BAHDアシル基転移酵素ファミリー: 植物成分の多彩なアシル化に関わる酵素群, *化学と生物*, 61: 254-256 (2023): (**MS, NMR, 蛍光HPLC**)
64. 池田 達, 加納佑真, 佐々木啓人, 山口優菜, 今泉祐紀, 田中法幸, 山田豊, 櫻田修, 銅管の耐孔食性迅速評価試験と実機との比較, *銅と銅合金*, 62, 90-94, (2023): (**XPS**)
65. 加納佑真, 山口優菜, 山田 豊, 櫻田 修, 銅管内表面の耐食性に対する拡管処理の影響, *銅と銅合金*, 62, 95-99, (2023): (**XPS**)
66. 加納佑真, 山口優菜, 居安隆志, 山田豊, 櫻田修, 環境配慮型施設の地下水利用による空調用銅管の腐食事例, *銅と銅合金*, 62, 100-104, (2023): (**SEM-EDS**)
67. 山口優菜, 加納佑真, 池田達, 山田豊, 櫻田修, リン銅ろう付部の銅母材の耐食性に及ぼすろう付冷却速度の影響, *銅と銅合金*, 62, 105-109, (2023): (**デジタルマイクロスコープ, SEM-EDS**)
68. 山口優菜, 佐々木啓人, 加納佑真, 山田豊, 櫻田修, 銅の腐食形態と酢酸濃度の影響, *銅と銅合金*, 62, 110-113, (2023): (**デジタルマイクロスコープ**)
69. 有馬豊大, 山口優菜, 杉浦花歩, 加納佑真, 佐々木啓人, 池田達, 居安隆志, 山田豊, 櫻田修, 銅管の腐食に及ぼすホスホン酸溶液中のCa²⁺, SiO₄⁴⁻ 濃度およびカーボン皮膜の影響, *銅と銅合金*, 62, 114-113, (2023): (**XPS**)
70. 杉浦花歩, 山口優菜, 有馬豊大, 加納佑真, 佐々木啓人, 池田達, 居安隆志, 山田豊, 櫻田修, スケール分散剤共存下における防錆剤による銅の腐食抑制, *銅と銅合金*, 62, 119-123, (2023): (**XPS**)

○ 著書:

1. C. Mencia, K. Balagurunathan and M. Koketsu, Glycosaminoglycans: Methods and Protocols (Volume 2303) (Xyloside Derivatives as Molecular Tools to Selectively Inhibit Heparan Sulfate and Chondroitin Sulfate Proteoglycan Biosynthesis.), Clifton, N.J. ED, *New York, Humana Press*, Volume 2303, 2022, p 753-764: (**MS, NMR**)
2. 内藤圭史, 「次世代半導体パッケージの最新動向とその材料, プロセスの開発」(第3章 半導体封止材料の設計, 要求特性と特性向上技術/第8節 クリストバライト充填エポキシ樹脂の力学特性), 199-208, 技術情報協会, 2023: (**TG, SEM**)

○ 参考資料:

1. 益木悠馬, 勝田長貴, 内藤さゆり, 由水千景, 陀安一郎, 南雅代, 安定同位体組成による姉川古せき止め湖堆積物のヒ素の堆積環境, *名古屋大学年代測定研究*, 7, 9-14, 2023: (**ICP**)
2. 東小百合, 池田将, 環境応答性多成分超分子ヒドロゲルの創製, 低分子ゲル・超分子ゲルの設計開発と応用 (シーエムシー出版), 194-203 (2023): (**MS, NMR, IR, TEM, SEM**)
3. 東小百合, 池田将, 多成分超分子ナノバイオ材料-分子集合の直交性・エネルギー散逸挙動-, *高分子*, 72, 284-287 (2023): (**MS, NMR, IR, TEM, SEM**)
4. 柳瀬笑子, 食品加工条件下におけるポリフェノール類の構造変化, *オレオサイエンス*, 23 巻第 10 号, 517-524(2023): (**MS, NMR**)

4. 機器分析分野教員の教育・研究活動等

1) 教育活動

1. 連合創薬医療情報研究科 創薬人材育成教育プログラム (鎌足)
2. 連合創薬医療情報研究科 抗体医薬特論 (鎌足)
3. 連合創薬医療情報研究科 副指導教員 (鎌足)
4. 応用生物科学部 学生実習 (鎌足)

2) 研究活動

〈原著論文・著書等〉

1. Hirata Y, Hashimoto T, Ando K, Kamatari YO, Takemori H, Furuta K. Structural features localizing the ferroptosis inhibitor GIF-2197-r to lysosomes. RSC Adv. 13, 32276-32281 (2023).
2. Rahman MM, Ishikawa H, Yamauchi M, Takashima S, Kamatari YO, Shimizu K, Okada A, Inoshima Y. Characterization of mRNA Signature in Milk Small Extracellular Vesicles from Cattle Infected with Bovine Leukemia Virus. Pathogens. 12, 1239 (2023).
3. Takada A, Kamatari YO, Shimizu K, Okada A, Inoshima Y. Exploration of microRNA Biomarkers in Blood Small Extracellular Vesicles for Enzootic Bovine Leukosis. Microorganisms. 11, 2173 (2023).
4. Yamauchi K, Soyano M, Kobayashi M, Kamatari YO, Mitsunaga T. Protein aggregation model to explain the bioactivity of condensed tannins. Food Chem. 416, 135870 (2023).
5. Rahman MM, Nakanishi R, Tsukada F, Takashima S, Wakihara Y, Kamatari YO, Shimizu K, Okada A, Inoshima Y. Identification of Suitable Internal Control miRNAs in Bovine Milk Small Extracellular Vesicles for Normalization in Quantitative Real-Time Polymerase Chain Reaction. Membranes (Basel). 13, 185 (2023).

〈学会発表〉

(国内学会)

1. 鎌足雄司, イヌ変性性脊髄症(DM)を引き起こす E40K 変異 SOD1 タンパク質の凝集体形成機構, 第7回生命分子科学研究会, 2023年11月16日, 岐阜.
2. 鎌足雄司, 生命を担うタンパク質の働く仕組みを理解し創薬へ繋げる, 第170回日本大学動物医科学研究センターセミナー, 2023年10月17日, 藤沢.
3. 鎌足雄司, 岐阜大学の先端研究機器の産業利用のすすめ, あいちモノづくりエキスポ2023, 2023年10月5日, 名古屋.
4. 鎌足雄司, 森田洋子, 古田享史, 複数のタンパク質の凝集抑制に効果を発揮する GIF 化合物, 第2回東海地区創薬デザイン研究会, 2023年8月28日, 岐阜.
5. 若山賢人, 小島結, 鎌足雄司, イヌ変性性脊髄症(DM)を引き起こす E40K 変異 SOD1 タンパク質の凝集体形成機構, 第2回東海地区創薬デザイン研究会, 2023年8月28日, 岐阜.
6. 森岡大翔, 小林美穂, 橋本統, 栗崎晃, 鎌足雄司, 表面プラズモン共鳴法(SPR)によるアクチビン E タンパク質とその抗体の親和性評価, 第2回東海地区創薬デザイン研究会, 2023年8月28日, 岐阜.

7. 鈴木健人, 宇納佳帆, 大野友花里, ニノ宮真之, 鎌足雄司, 瀨瀬守, 抗アポトーシス性タンパク質 Bcl-2 を標的としたキノキサリン-1,3,4-オキサジアゾール誘導体の化学修飾と評価, 第2回東海地区創薬デザイン研究会, 2023年8月28日, 岐阜.
8. 山内恒生, 征矢野真由, 小林美穂, 鎌足雄司, 光永徹, 縮合型タンニンの生理作用機序を示すタンパク質凝集モデル, 第2回東海地区創薬デザイン研究会, 2023年8月28日, 岐阜.
9. 鎌足雄司, 複数のタンパク質の凝集抑制に効果を発揮する GIF 化合物, 大学見本市 2023～イノベーション・ジャパン, 2023年8月24日, 東京.
10. 鎌足雄司, イヌ変性性脊髄症(DM)を引き起こす E40K 変異 SOD1 タンパク質の凝集体形成機構, 第23回日本蛋白質科学会年会, 2023年7月4日, 名古屋.

3) 補助金関連採択状況

1. 2023～2025年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) (一般) (分担) 「化学シャペロンに有効なファーマコフォアモデルの構築法の開発と抗プリオン薬への応用」(鎌足)
2. 令和5年度岐阜大学創薬シーズ共同研究「筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬を目指した新規オキシインドール化合物」(鎌足)
3. 地域創生プロジェクト推進費「タンパク質や糖鎖の構造と相互作用情報から生命現象を理解し創薬を実現する」(鎌足)

4) その他

(役員等)

1. 日本生物物理学会分野別専門委員 (鎌足)
2. 岐阜構造生物学・医学・論理的創薬研究会事務局 (鎌足)
3. Molecules Editorial Board (鎌足)